

2026年3月期

決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2026年5月15日

東証プライム(4368)



I. 2026年3月期 決算概要

取締役

伊藤 裕之

II. 事業の概要

■ ライフサイエンス事業

■ 電子材料事業

専務取締役

政氏 晴生

取締役

梶本 源樹

III. 2027年3月期 業績予想

代表取締役社長

杉田 真一

IV. 新中期経営計画（2026年度～2030年度）

常務取締役

藤岡 篤

V. Q & A

I. 2026年3月期 決算概要

FUSO CHEMICAL

2026年3月期 決算概要



(単位：億円)

当期実績

前年同期比

前期実績

増減額

増減率

期初計画比

公表計画

増減額

増減率

修正計画比

公表計画

増減額

増減率

売上高

769.2

695.0

+74.2

+10.7%

727.0

+42.2

+5.8%

755.0

+14.2

+1.9%

営業利益

188.5

162.3

+26.2

+16.1%

140.0

+48.5

+34.6%

175.0

+13.5

+7.7%

経常利益

195.7

165.6

+30.1

+18.2%

138.0

+57.7

+41.8%

176.0

+19.7

+11.2%

当期純利益

143.1

116.2

+26.8

+23.1%

94.0

+49.1

+52.3%

122.0

+21.1

+17.3%

償却前営業利益

297.8

245.3

+52.4

+21.4%

255.0

+42.8

+16.8%

284.0

+13.8

+4.9%

1株当たり
当期純利益

405.86円

329.68円

+76.17円

+23.1%

266.61円

+139.24円

+52.2%

346.04円

+59.81円

+17.3%

※1株当たり当期純利益は株式分割前

売上高および償却前営業利益 過去最高を更新

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：億円)		当期実績	前年同期比 増減額		
		前期実績	増減率		
■ ライフサイエンス事業	売上高	354.1	362.8	△8.7	△2.4%
	営業利益	53.0	52.8	+0.1	+0.4%
■ 電子材料事業	売上高	415.1	332.1	+83.0	+25.0%
	営業利益	159.2	131.7	+27.5	+20.9%
(調整額)		△23.8	△22.3	△1.5	—
■ 営業利益（全社）		188.5	162.3	+26.2	+16.1%

セグメント別【売上高】

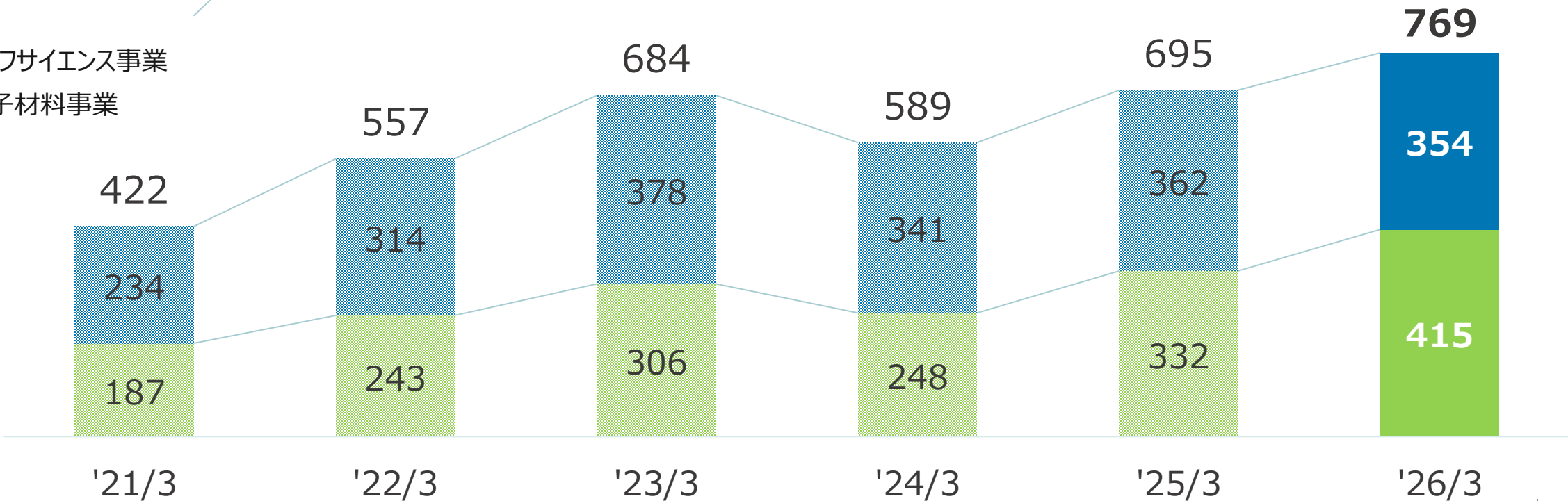


(単位：億円) 2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期 2025年3月期 2026年3月期

売上高	422	557	684	589	695	769
ライフサイエンス事業	234	314	378	341	362	354
電子材料事業	187	243	306	248	332	415

(億円)

■ ライフサイエンス事業
■ 電子材料事業





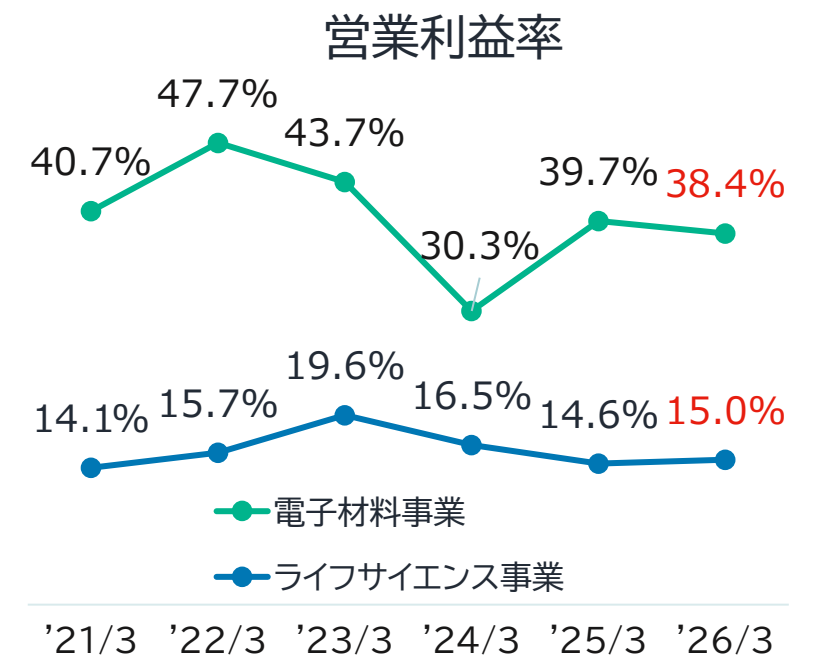
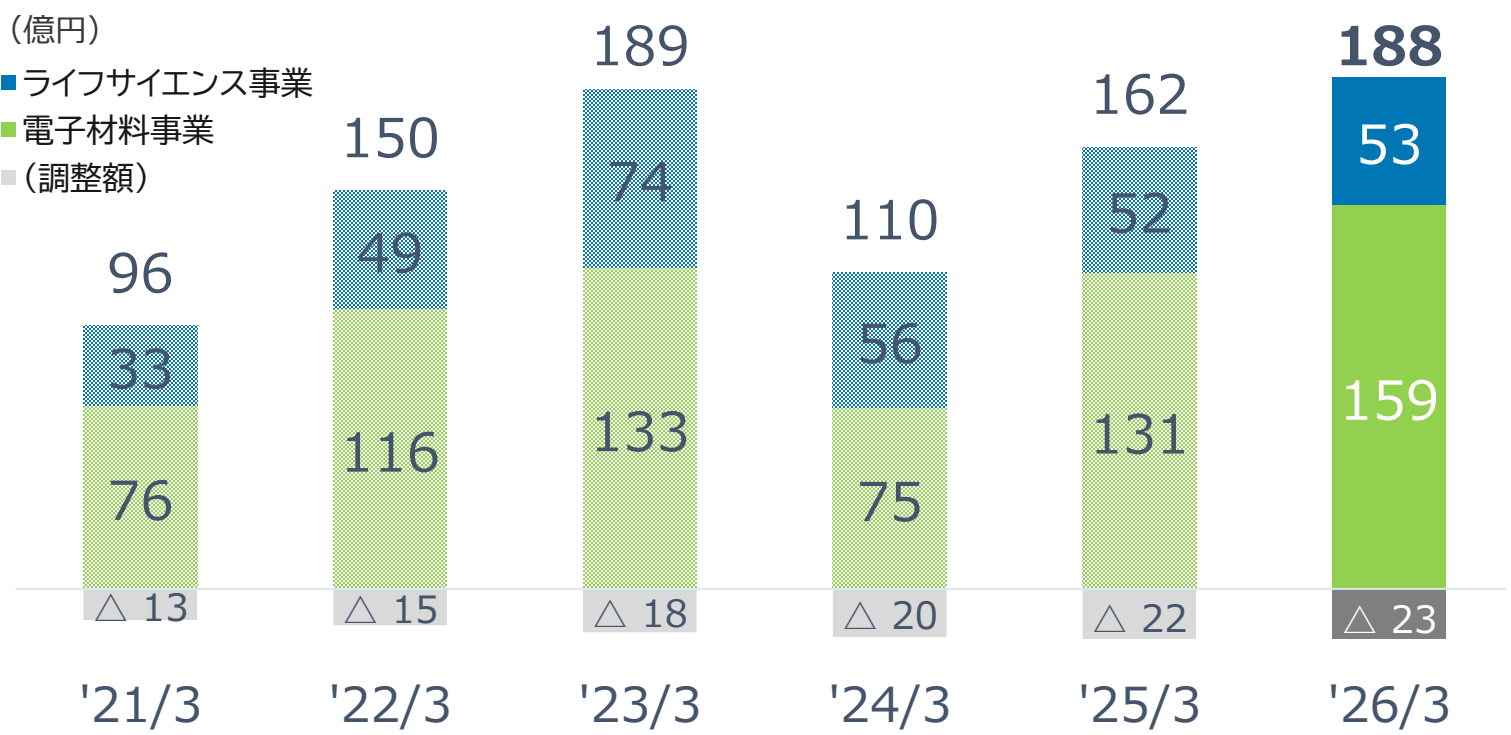
セグメント別【営業利益】



(単位：億円) 2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期 2025年3月期 **2026年3月期**

営業利益	96	150	189	110	162	188
ライフサイエンス事業	33	49	74	56	52	53
電子材料事業	76	116	133	75	131	159
(調整額)	△ 13	△ 15	△ 18	△ 20	△ 22	△ 23

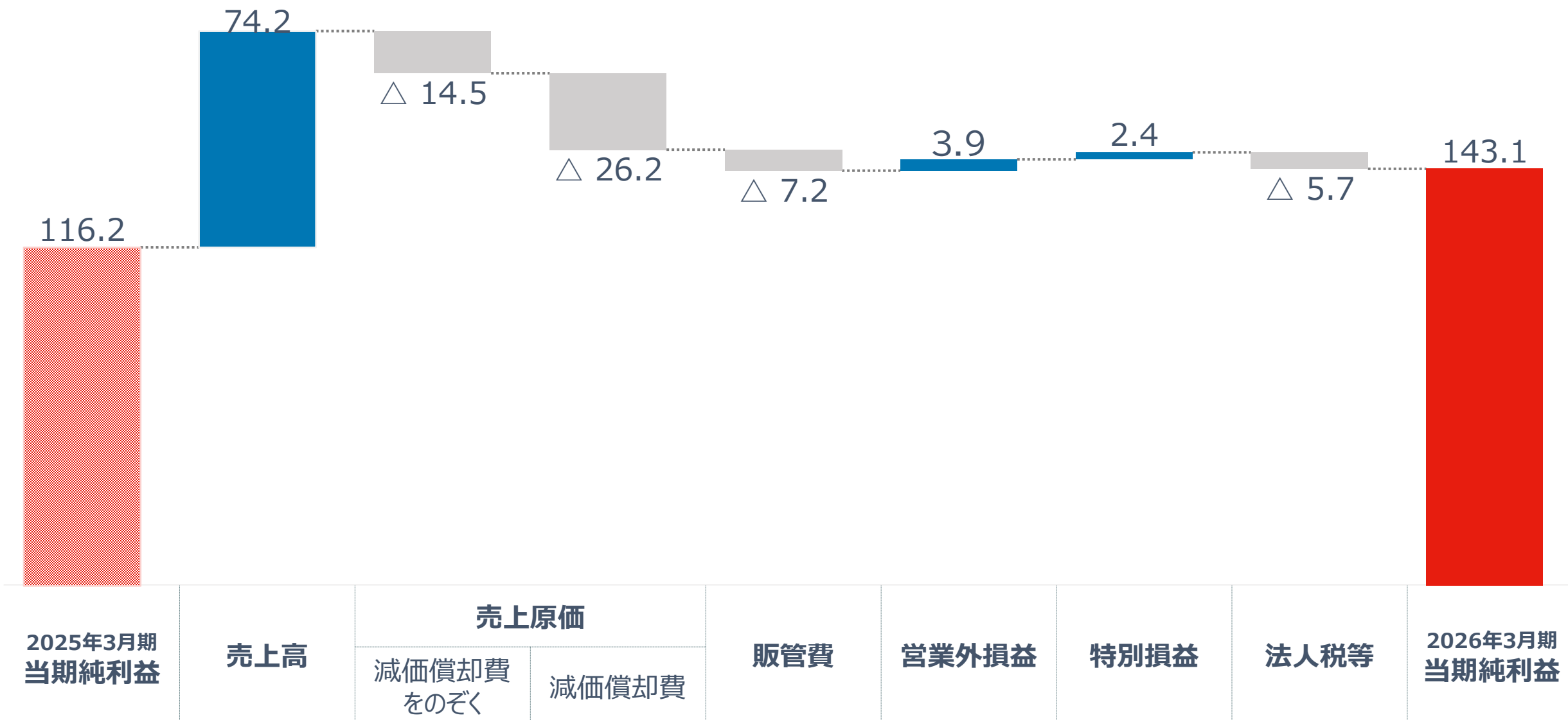
(億円)
■ ライフサイエンス事業
■ 電子材料事業
■ (調整額)



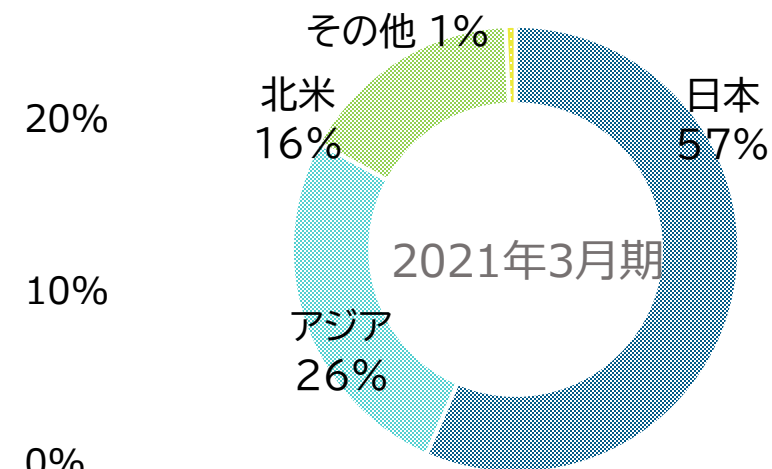
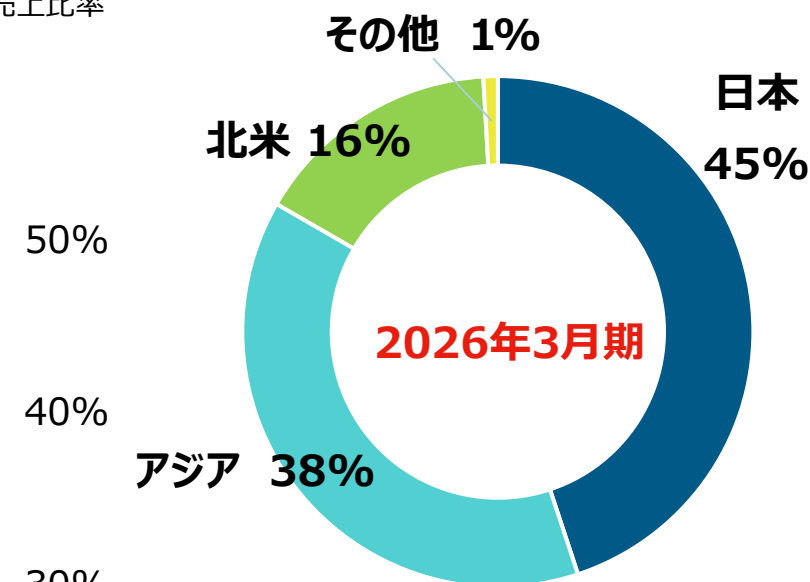
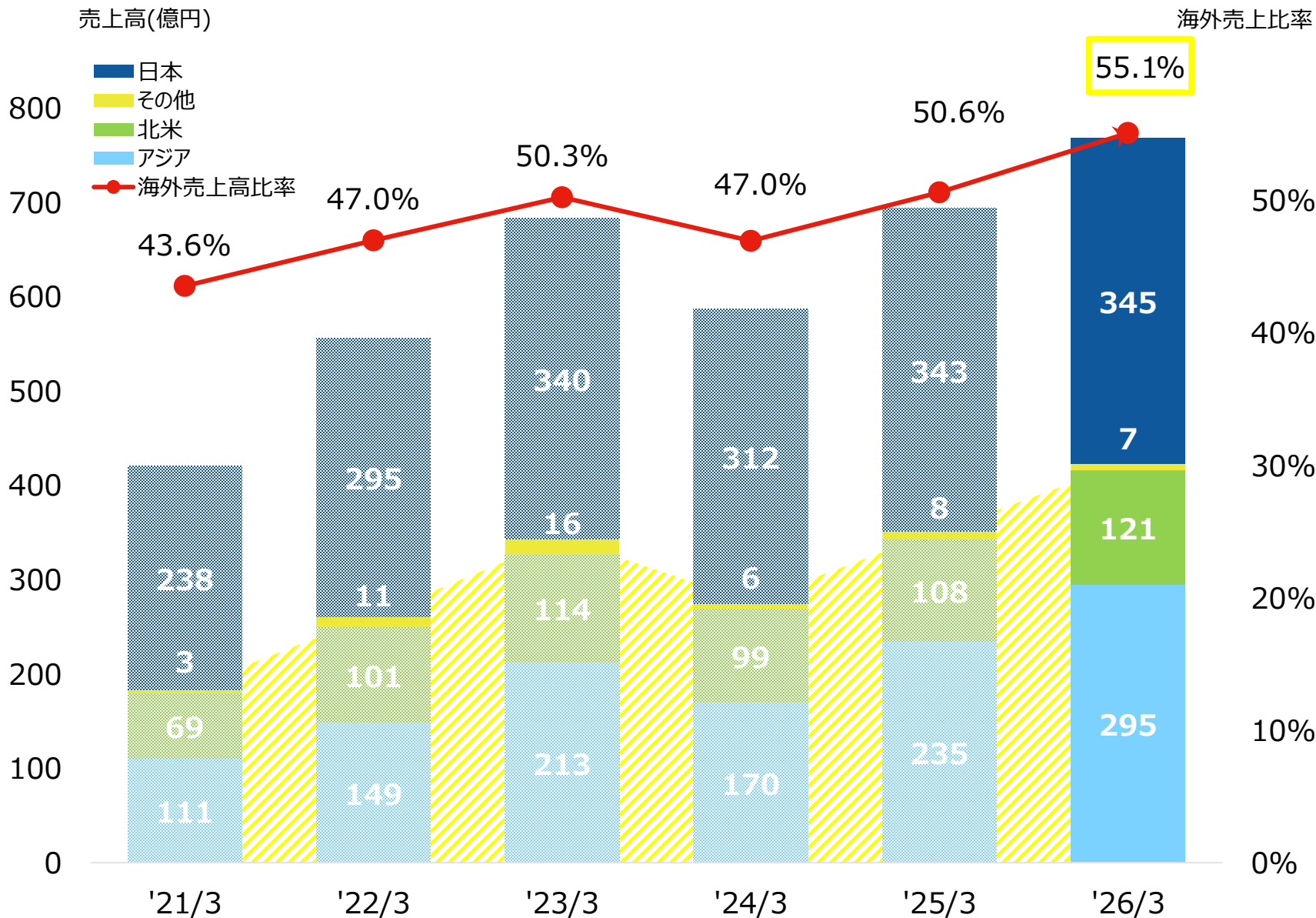
2026年3月期 当期純利益増減要因



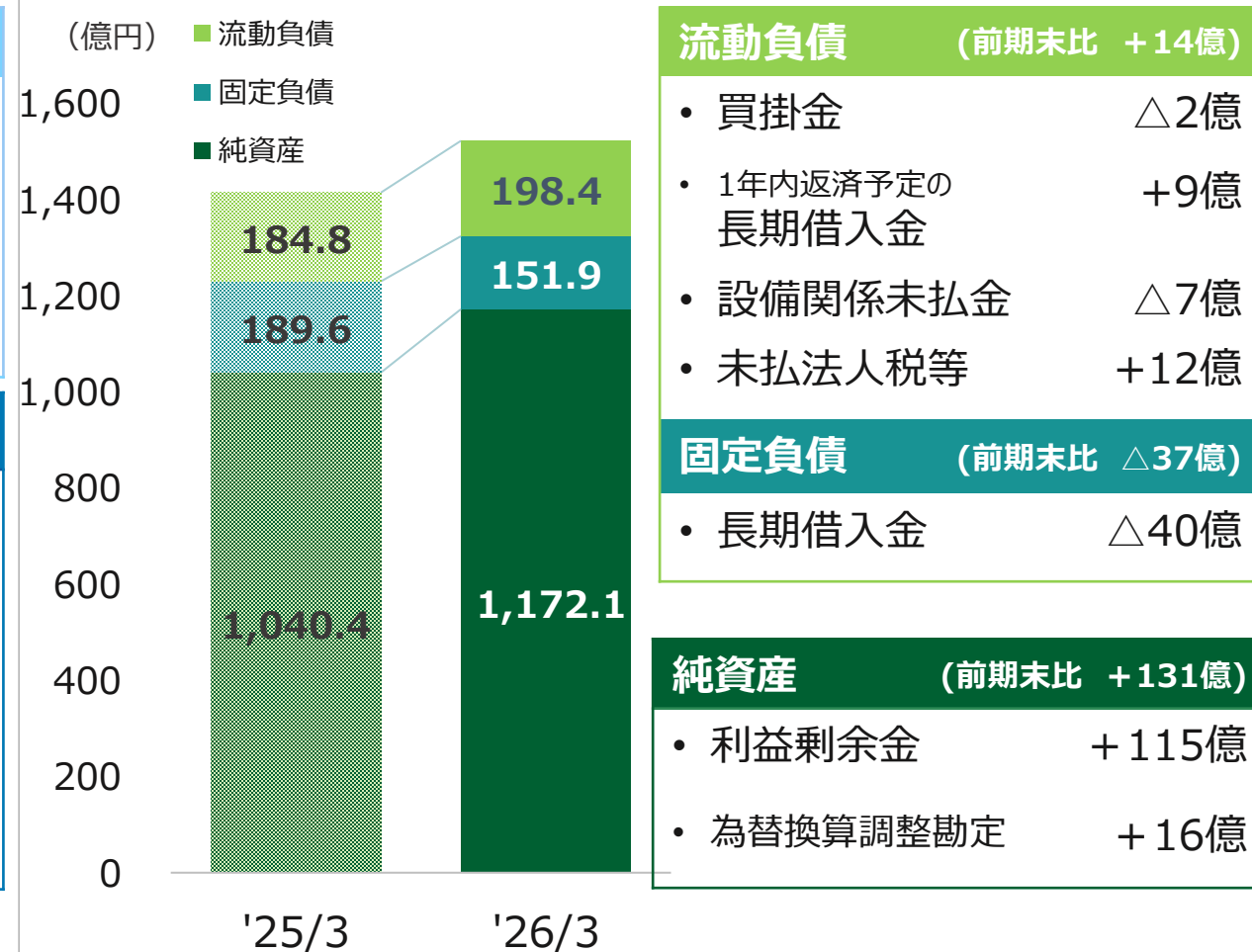
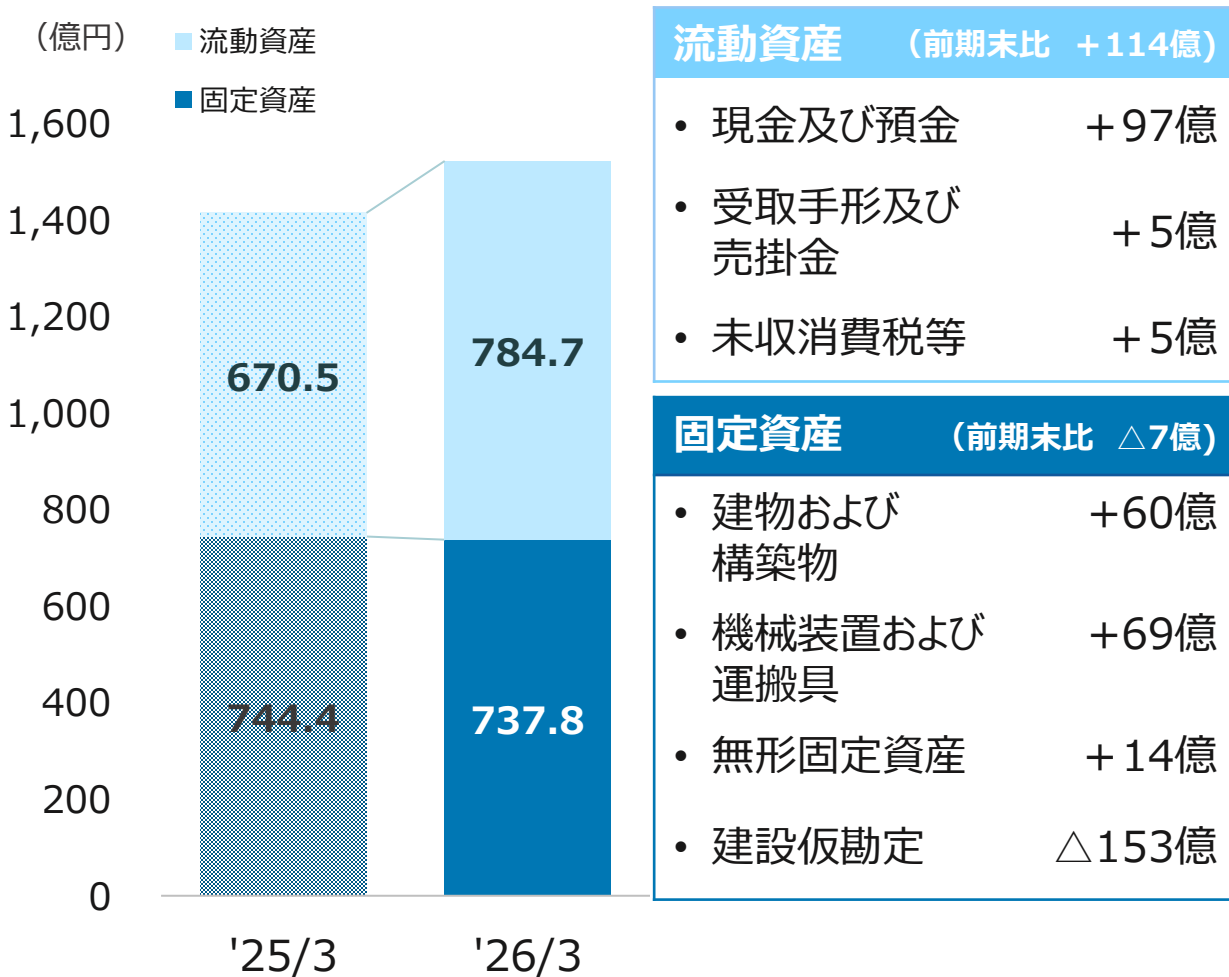
(単位：億円)



海外売上高



資産・負債・純資産





キャッシュフロー

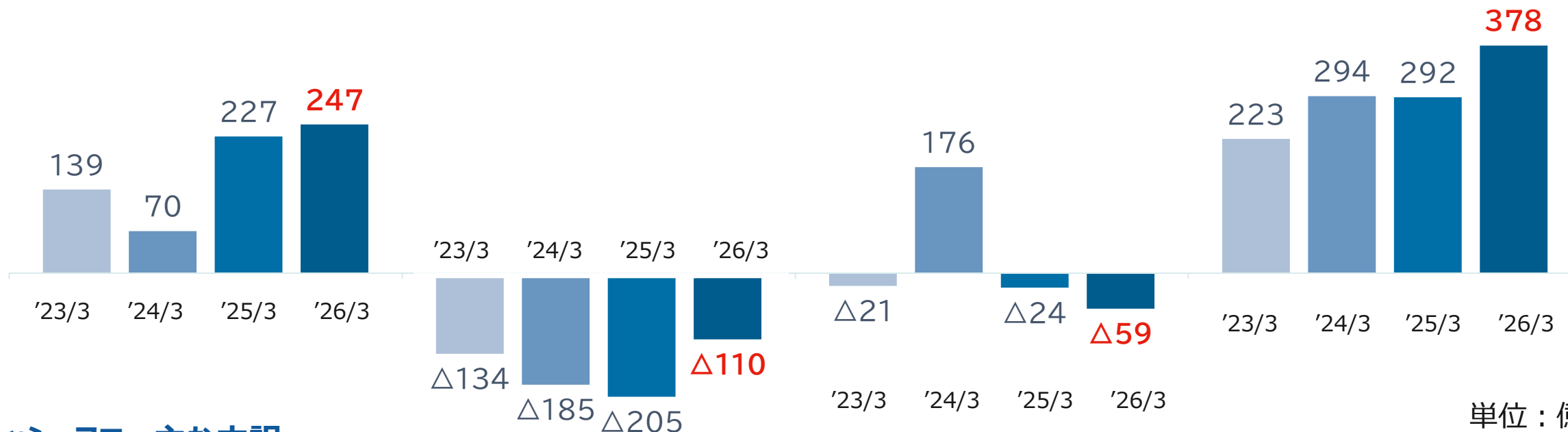


営業キャッシュフロー

投資キャッシュフロー

財務キャッシュフロー

現金及び現金同等物 期末残高



■ キャッシュフロー主な内訳

営業活動によるキャッシュフロー

• 税金等調整前当期純利益	+ 195
• 減価償却費	+ 109
• 法人税等の支払	△41

投資活動によるキャッシュフロー

• 有形固定資産の取得	△73
• 無形固定資産の取得	△27

財務活動によるキャッシュフロー

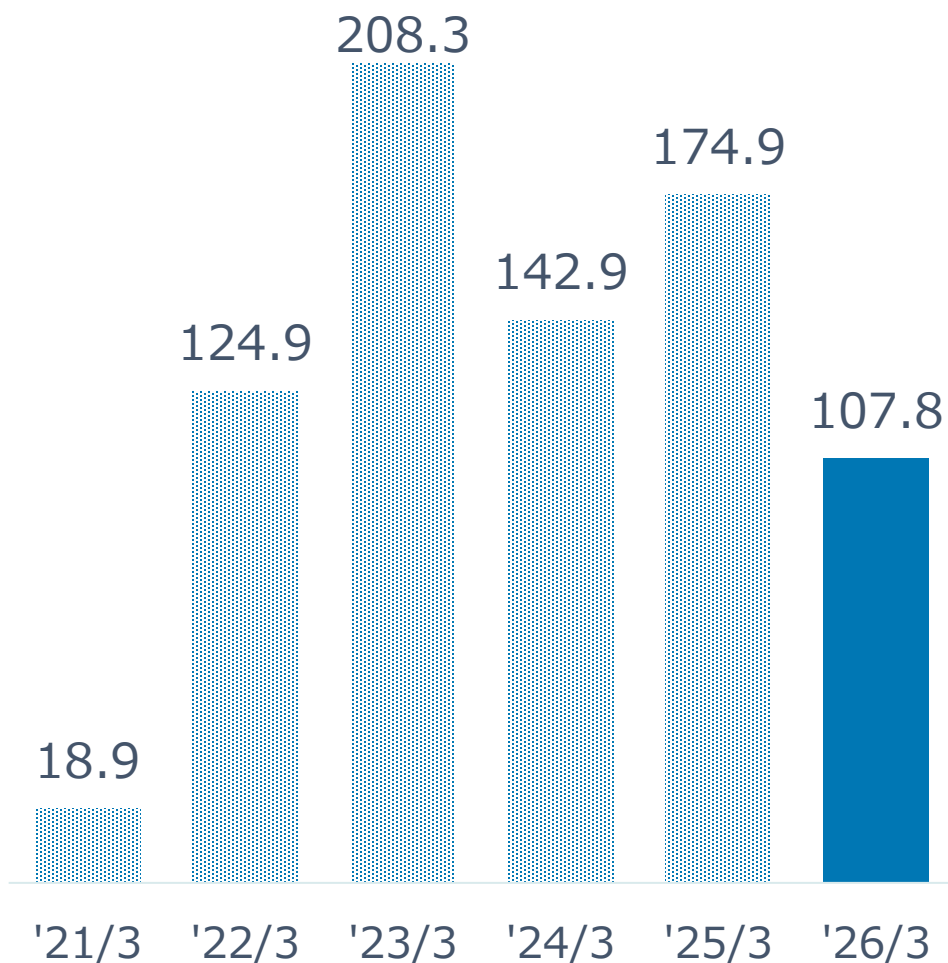
• 長期借入金の返済	△31
• 配当金の支払	△27

設備投資額・減価償却費・研究開発費



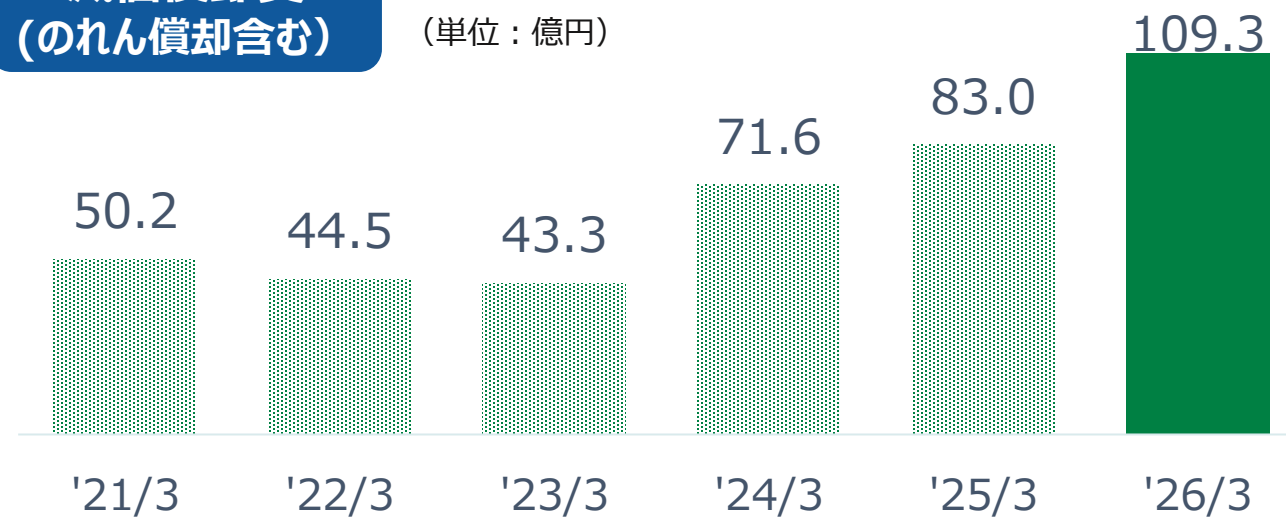
設備投資額

(単位：億円)



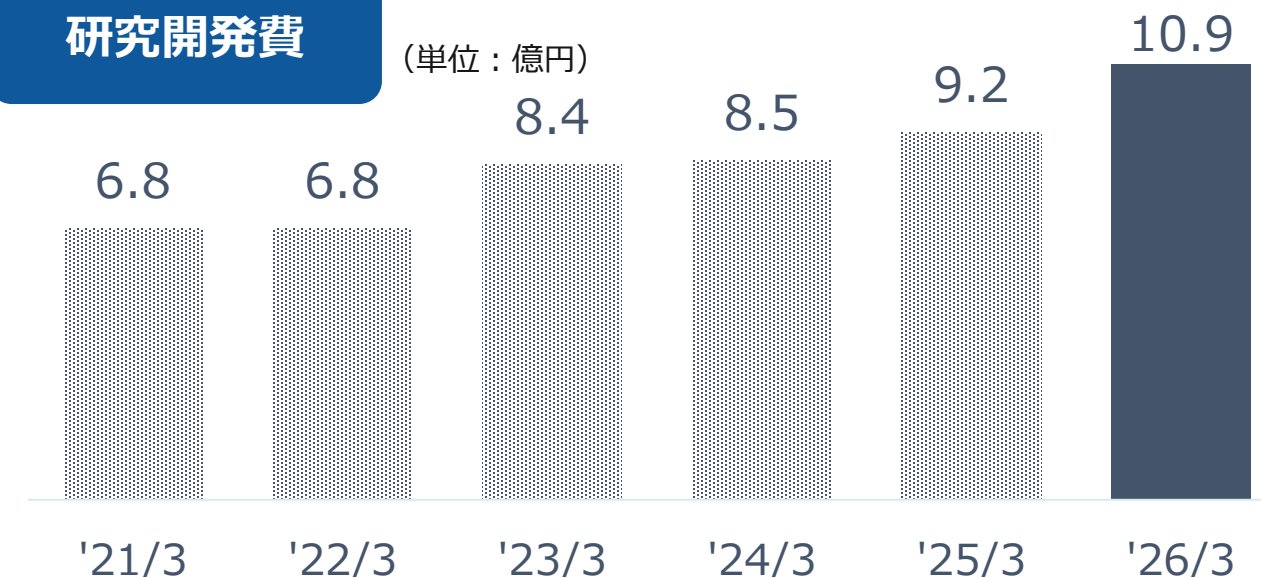
減価償却費 (のれん償却含む)

(単位：億円)



研究開発費

(単位：億円)



償却前営業利益



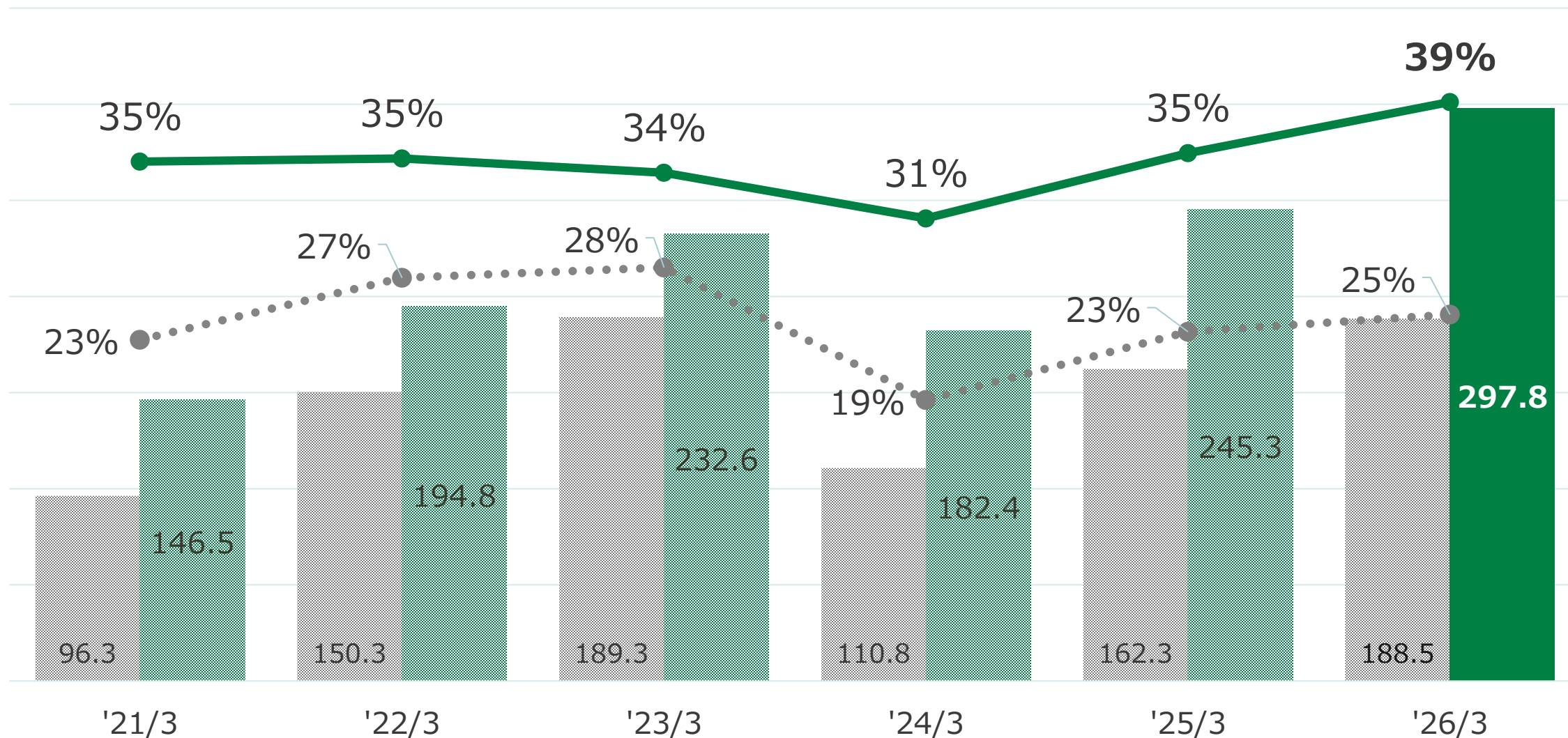
(単位：億円)

営業利益

償却前営業利益

営業利益率

償却前利益率



II. 事業の概要

ライフサイエンス事業部

FUSO CHEMICAL

事業内容



ライフサイエンス事業



- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- フマル酸類
- ビタミンC類
- 食品添加物製剤類
- その他果実酸類
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)
- 無水マレイン酸類
- 高純度有機酸



電子材料事業



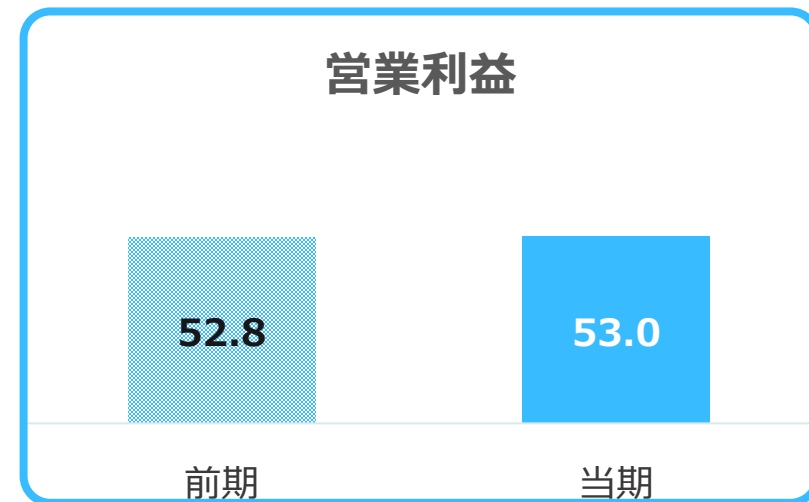
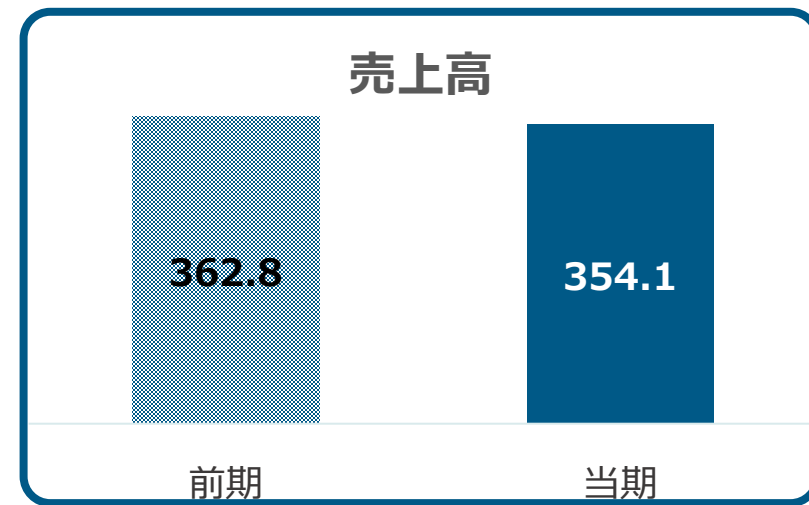
- 電子材料
 - ・ 超高純度コロイダルシリカ
- 機能性材料
 - ・ 高純度オルガノシリカゾル
 - ・ シリカナノパウダー
 - ・ アルキルシリケート



ライフサイエンス事業 2025年度概況



(単位:億円)	前期	当期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	362.8	354.1	△8.7	△2.4% ↘
営業利益	52.8	53.0	+0.1	+0.4% ↗



売上高 増減要因		営業利益 増減要因	
+	- 米国向けグルコン酸類の物量増 - リンゴ酸の海外販売増 - タイ扶桑での製剤類伸長	+	- 鹿島事業所の稼働率向上 - 国内リンゴ酸の価格是正 - 石化由来品の原価改善
-	- 医薬品向けビタミンC物量減 - フマル酸シェア維持のための価格対応 - 中国での廉価品による製剤類ロスト	-	- 仕入れ価格高 - クエン酸・ビタミンC類等競争激化による販売価格下落

単位：億円

© 2026 FUSO CHEMICAL CO., LTD.

2026年度重点施策



I. グローバル連携強化

- 海外子会社と一体になった事業戦略
- 果実酸の海外市場シェア拡大
- 食品添加物製剤のアジア向け拡販

II. 国内シェア確保

- 主力商品群のシェア確保
 - * クエン酸類／ビタミンC類
 - * リンゴ酸類／フマル酸

III. FFA製品の見直し・強化

- グローバル視点での開発体制構築
- 新規開発品のスピーディな上市
- 食品添加物製剤のアプリケーション提案強化

IV. 自社グループ製造品強化

- 外部製造品目の見直し
- 安定高稼働・効率化に向けた設備投資



I. グローバル連携強化



海外子会社と一体となった事業戦略

中国



- 食品添加物製剤のアジア向け拡販
- ベトナム市場での拡販
- 顧客ニーズに応える製品開発

青島扶桑精製
加工有限公司

FUSO
(THAILAND)
CO., LTD.

タイ



扶桑化学工業
ヘッドクォーター

アメリカ

- グルコン酸類の製造キャパ強化
- 果実酸の海外市場シェア拡大

PMP
Fermentation
Products, Inc.



日本

- 最適生産・開発・販売体制推進
- リンゴ酸プラントの安定高稼働

FUSOブランド確立

技術力

製品力

供給力

I. グローバル連携強化

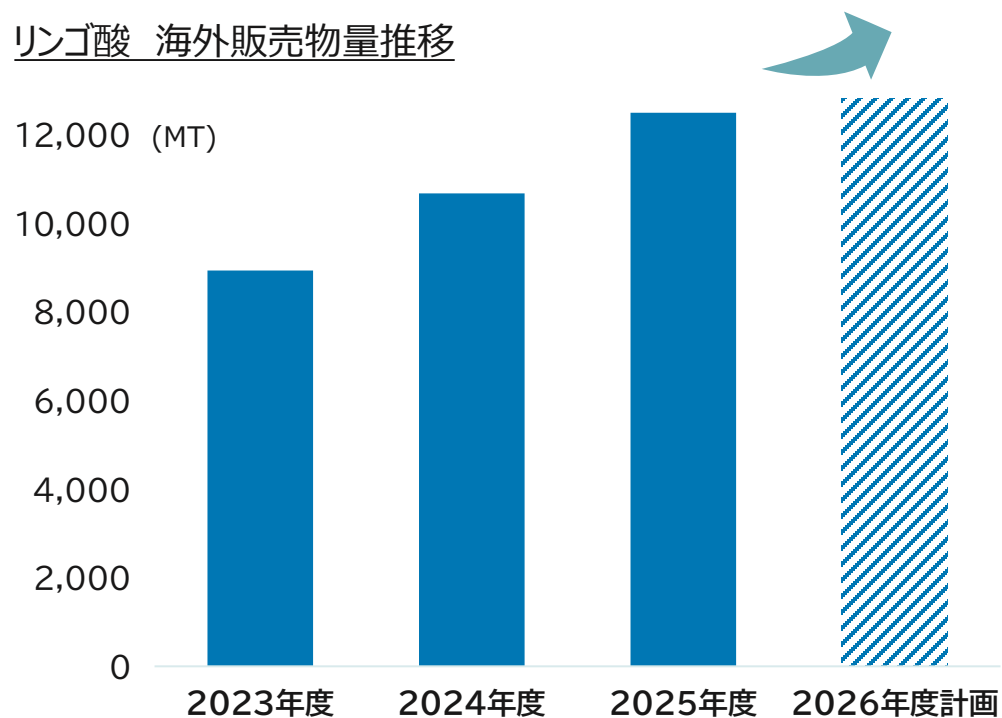


リンゴ酸の北米、欧州での販売強化

販売戦略

- 販売国の市場に応じた戦略的な価格対応で販売量増
- 北米、欧州での販売量増、新規取引先への販売強化
- 積極的な新規用途開拓（農業資材・農薬用途など）

リンゴ酸 海外販売物量推移



グルコン酸の供給・販売体制強化

PMP 2025年単体業績

- 売上高 : 約82億円（過去最高）
- 営業利益 : 約12億円（前年比105%）

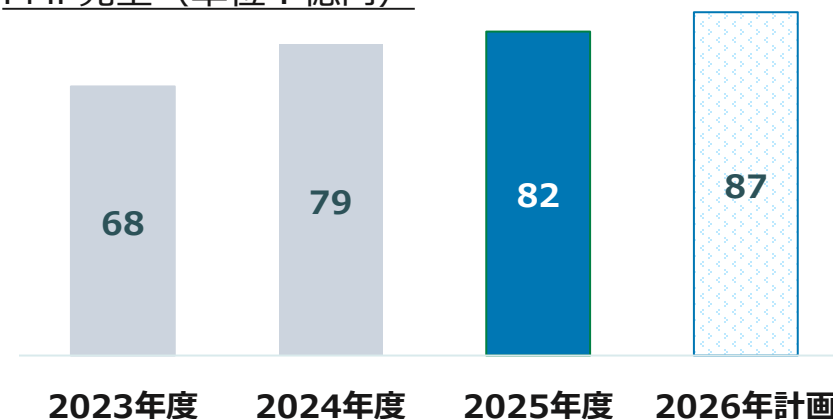
販売数量増

- 2024年初より、シェア奪還への価格対応
- 前年比7%数量増

設備増強

- 2023年12月 主発酵槽および付帯設備、各種タンク他
- 2027年 7 月 結晶缶および付帯設備（進行中）

PMP売上（単位：億円）



Ⅱ. 国内シェア確保

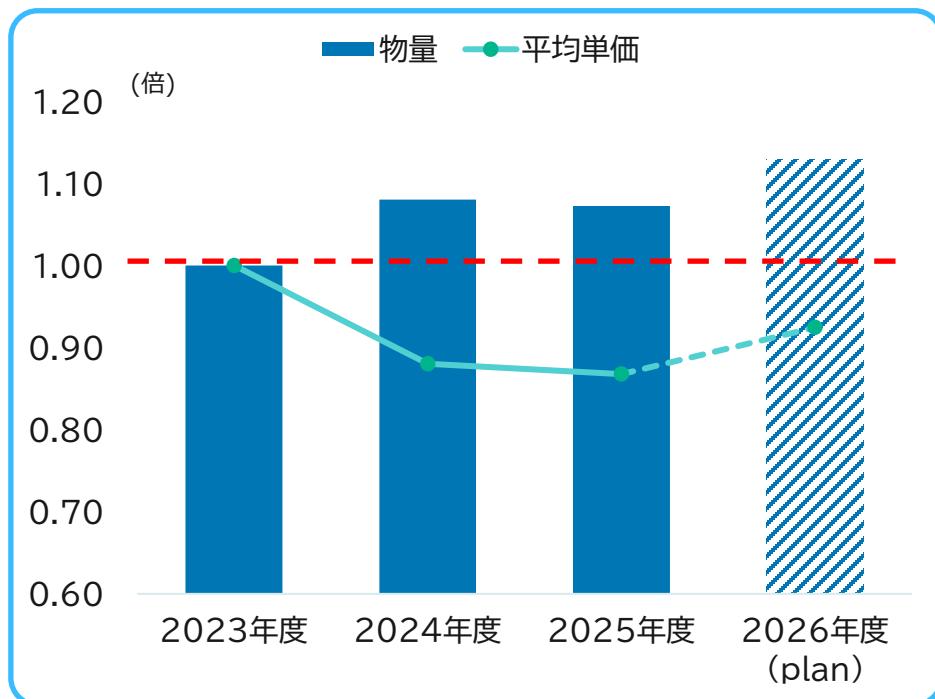


クエン酸類

販売戦略

- 価格動向に注視しながら入札案件の獲得
- 原料動向に対応した価格改定の随時実施
- 大手飲料・大口洗剤メーカー向け数量確保

販売物量推移

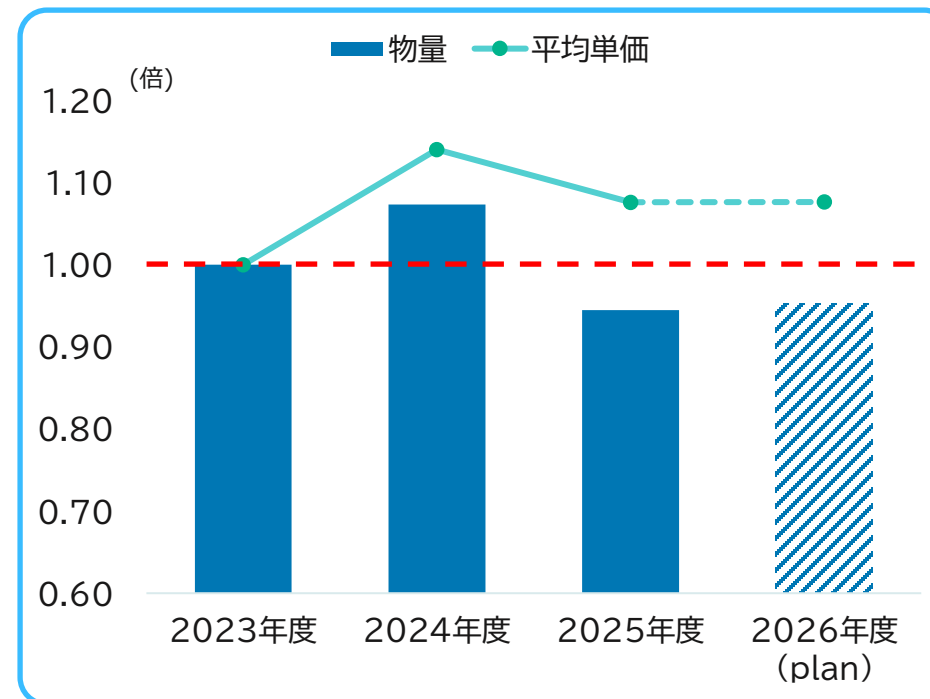


ビタミンC類

販売戦略

- 高付加価値ビタミンCシェアアップ
- 柔軟な価格政策によるロスト先奪回
- 入札案件の確実な取り込み

販売物量推移



Ⅱ. 国内シェア確保

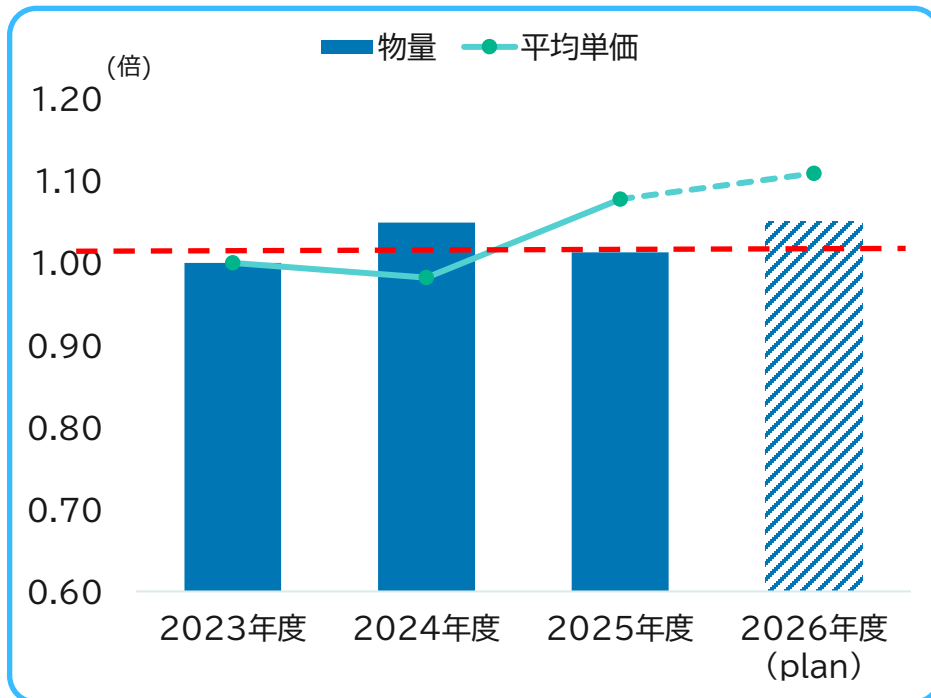


リンゴ酸類

販売戦略

- ・ 大口ユーザーでのシェア維持・アップ
- ・ リンゴ酸塩類内製化による競争力向上
- ・ 母液製品の拡販

販売物量推移

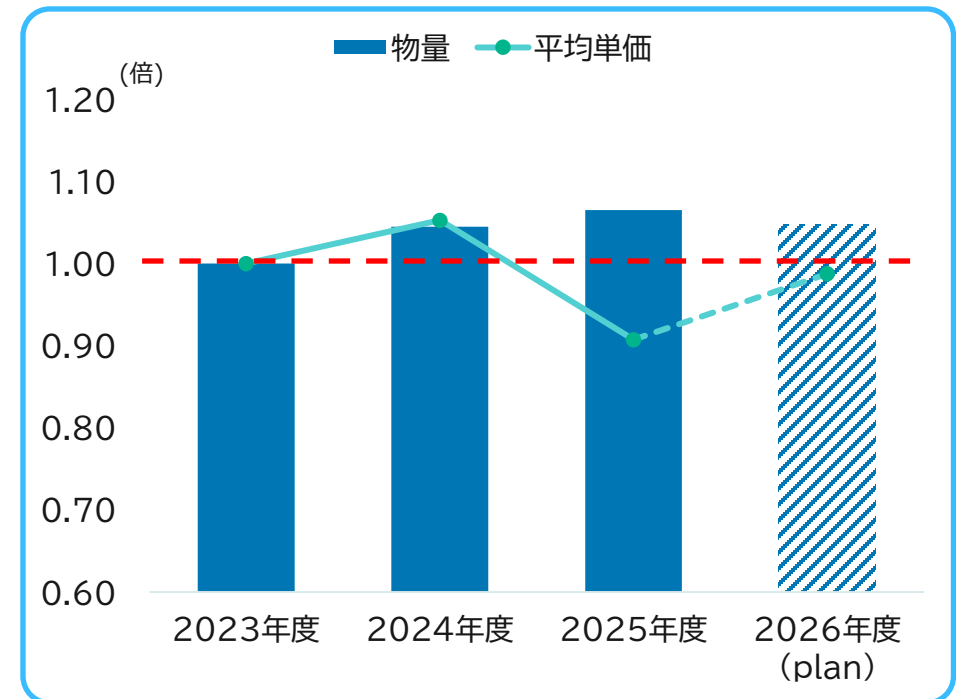


フマル酸

販売戦略

- ・ 大手顧客でのシェア維持
- ・ 柔軟な価格対応により大手需要先奪回
- ・ 入札案件の確実な取り込み

販売物量推移



Ⅲ. FFA製品の見直し・強化



グローバル視点での開発体制構築

- ・ 日本、中国、タイの連携を強化
- ・ 東京研究所拡張による顧客サービス向上

新規開発品のスピーディな上市

- ・ 開発～生産～販売体制の連携強化
- ・ 自社グループ設備を最大限有効活用

食品添加物製剤のアプリケーション提案強化

- ・ 青島扶桑製造品目の日本市場への展開
- ・ 顧客（マーケット）ニーズの確実な拾い上げ



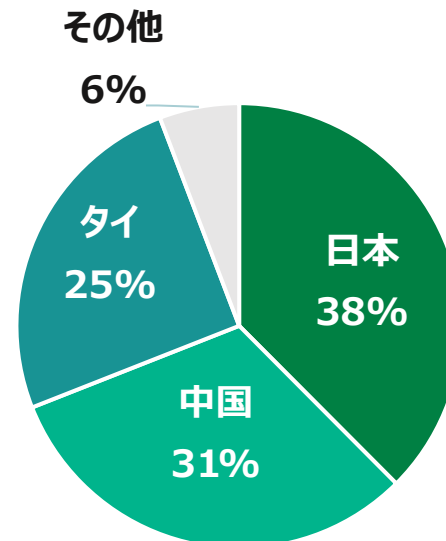
東京研究所（かながわサイエンスパーク）



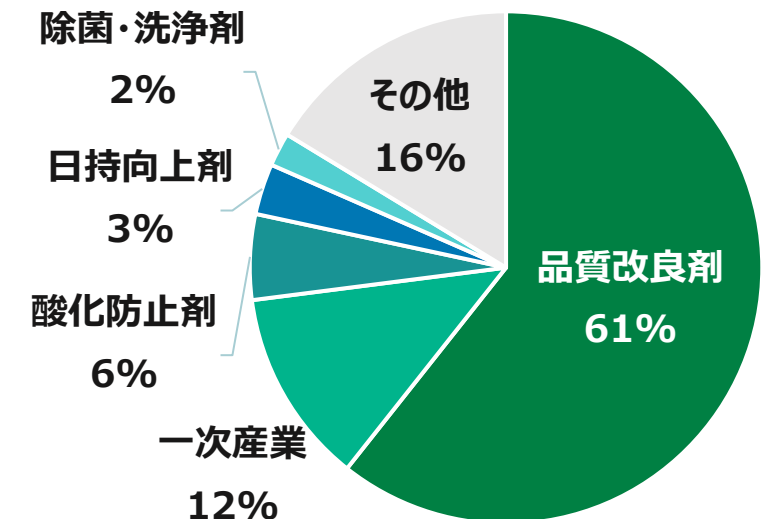
FFA食添製剤生産開発拠点



FFA国別売上比



FFA用途別売上比



IV. 自社グループ製造品強化



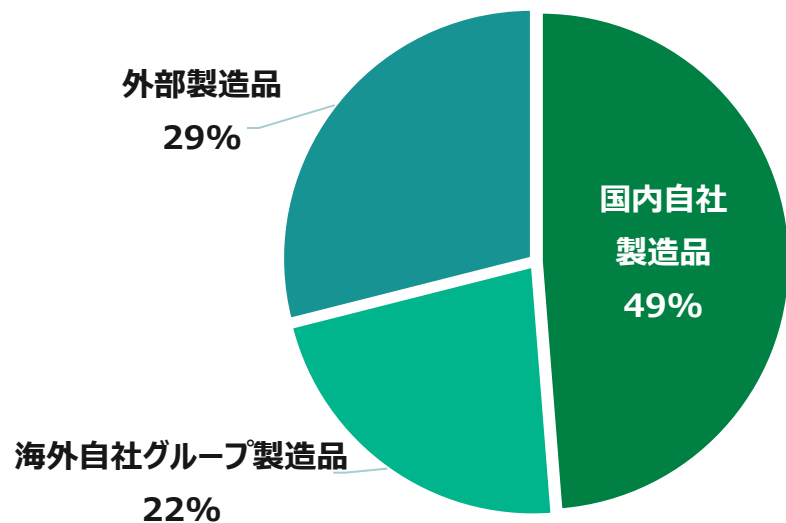
外部製造品目の見直し

- 外部製造品のグループ内製造による原価低減
内製化ターゲット：果実酸塩類、食添製剤
拠点候補：大阪工場、青島扶桑
- 低収益、販売減品目の統廃合



大阪工場

2025年度販売実績



内製化率 **75%** を目指す

安定高稼働・効率化に向けた設備投資

2026年度計画

- 大阪工場：新事務棟新設（試験室含む）
- 鹿島事業所：タンク補修工事
- PMP：結晶缶および付帯設備増強

※ 中東情勢不安定化による事業への影響



● リンゴ酸・フマル酸・無水マレイン酸

ナフサ流通遮断によるベンゼン（主原料）の価格急騰・調達不安定化

【供給面】

- ・無水マレイン酸プラントは原料確保により定修（5月上旬）まで稼働維持
- ・定修明け（6月下旬）の稼働はベンゼン調達可否が直前まで不透明
- ・無水マレイン酸の外部調達によるリンゴ酸・フマル酸の稼働維持も検討中

【価格面】

- ・ベンゼン価格が高止まりする状況では販売価格是正が必須の見通し

● クエン酸

硫黄流通遮断による硫酸（副原料）の価格高騰による仕入価格上昇

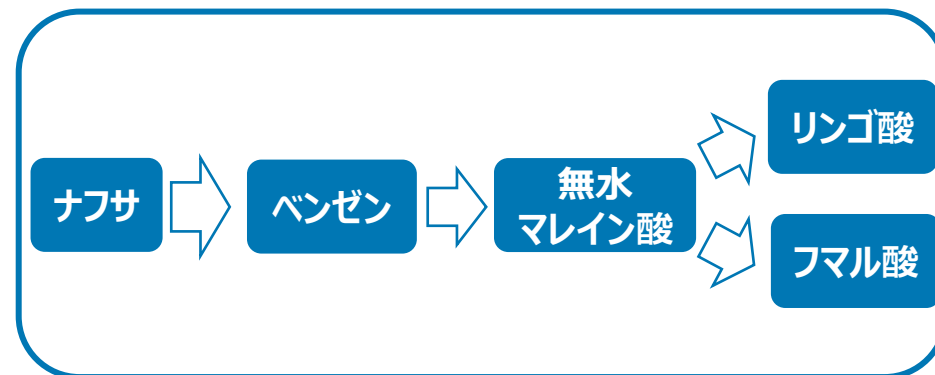
● グルコン酸・ビタミンC

中東情勢による直接的な影響は現状認められず

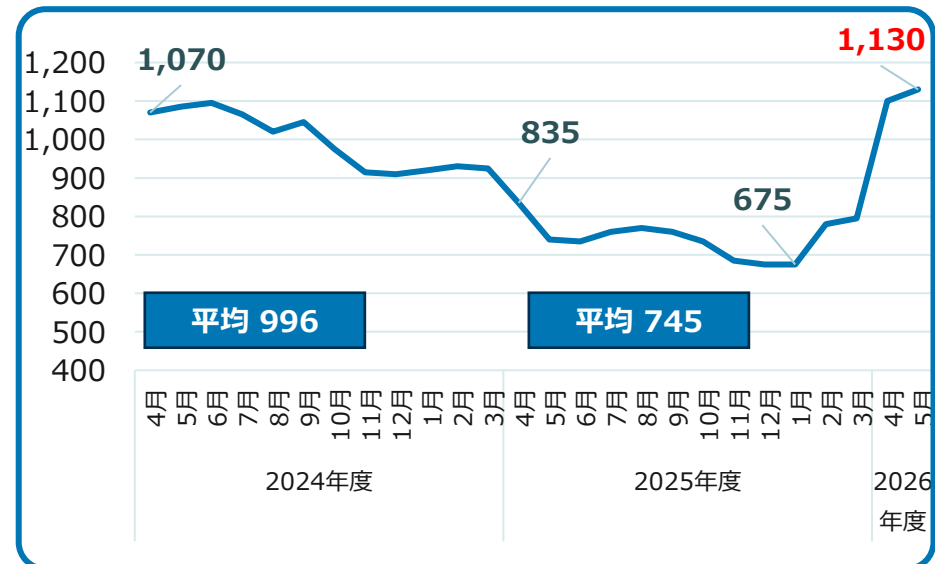
● 全品目共通

包材等の物流資材の調達不安定化と価格高騰

ベンゼンと誘導品の関係



ベンゼンACP（\$/MT）



II.事業の概況

電子材料事業

FUSO CHEMICAL

事業内容



ライフサイエンス事業



- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- フマル酸類
- ビタミンC類
- 食品添加物製剤類
- その他果実酸類
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)
- 無水マレイン酸類
- 高純度有機酸



電子材料事業



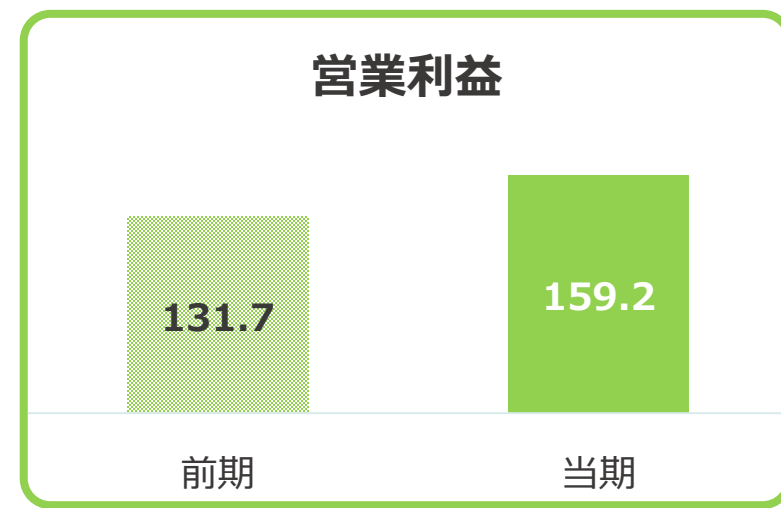
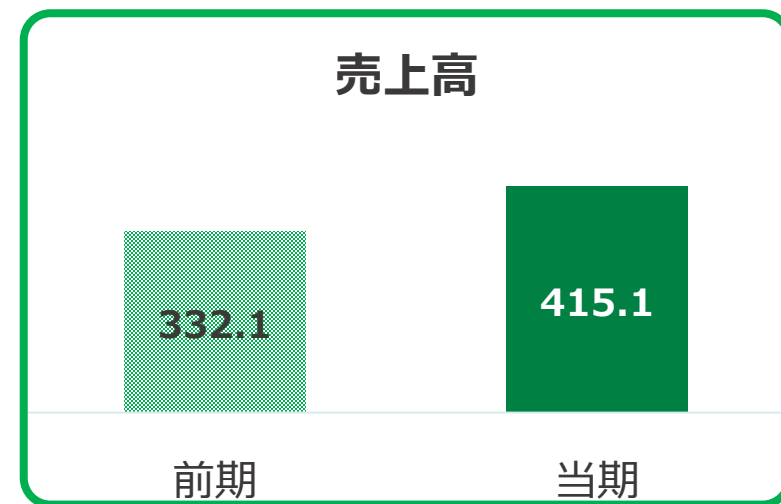
- 電子材料
 - ・ 超高純度コロイダルシリカ
- 機能性材料
 - ・ シリカナノパウダー
 - ・ 高純度オルガノシリカゾル
 - ・ アルキルシリケート



電子材料事業 2025年度概況



(単位:億円)	前期	当期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	332.1	415.1	+83.0	+25.0% ↗
営業利益	131.7	159.2	+27.5	+20.9% ↗



売上高 増減要因		営業利益 増減要因	
+	- コロイダルシリカ販売数量増 - 好調なAI半導体向け需要 - 中国向け販売数量増加	+	- 販売増に伴う稼働率UP - 新規生産設備の高稼働 - 生産における効率化
-	PC/スマートフォン向け等の需要低調	-	- 減価償却費の増加 - 生産ライン増加に伴う人件費・修繕費の増加 - 資材コストの上昇

単位：億円

2025年度 施策

鹿島【Ⅰ期・Ⅱ期】
京都新ライン 稼働・認定

最先端技術への対応

コストアップの価格転嫁

新規需要の取り込み

高濃度化及び高生産性製品の拡充

サプライチェーンリスクへの対応

次世代製品の上市



2025年度 実績

鹿島Ⅰ期：フル稼働 京都：認定完了
鹿島Ⅱ期：8月完工

TSMC向けN2世代で採用
A16/A14世代で要求事項確認

次期設備投資に伴う値上げの合意

中国向け拡大：事業部売上10%

全生産量に占める比率UP

金属ケイ素購入先の複数化

ミラリカ™(中空シリカ)量産ライン着工

I. 急拡大する半導体市場への対応

1. 生産能力のアップ

- 新ライン(鹿島Ⅱ期)の早期認定
- 高濃度化及び高生産性製品の拡充、計画生産の実現
- マルチ認定化/既存設備の運用最適化/保全改善/立上げ短縮

2. 次世代に向けての取り組み

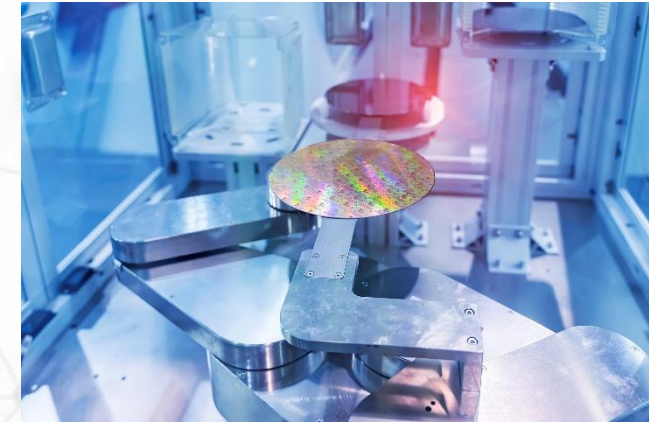
- 最先端半導体・アドバンスドパッケージ向け製品開発
- 次期設備投資に向けた情報収集・価格戦略構築

II. 外部環境変化への迅速・柔軟な対応

- コストアップの価格転嫁
- サプライチェーンリスクへの対応、中東情勢

III. 新機能材としてポートフォリオ変革

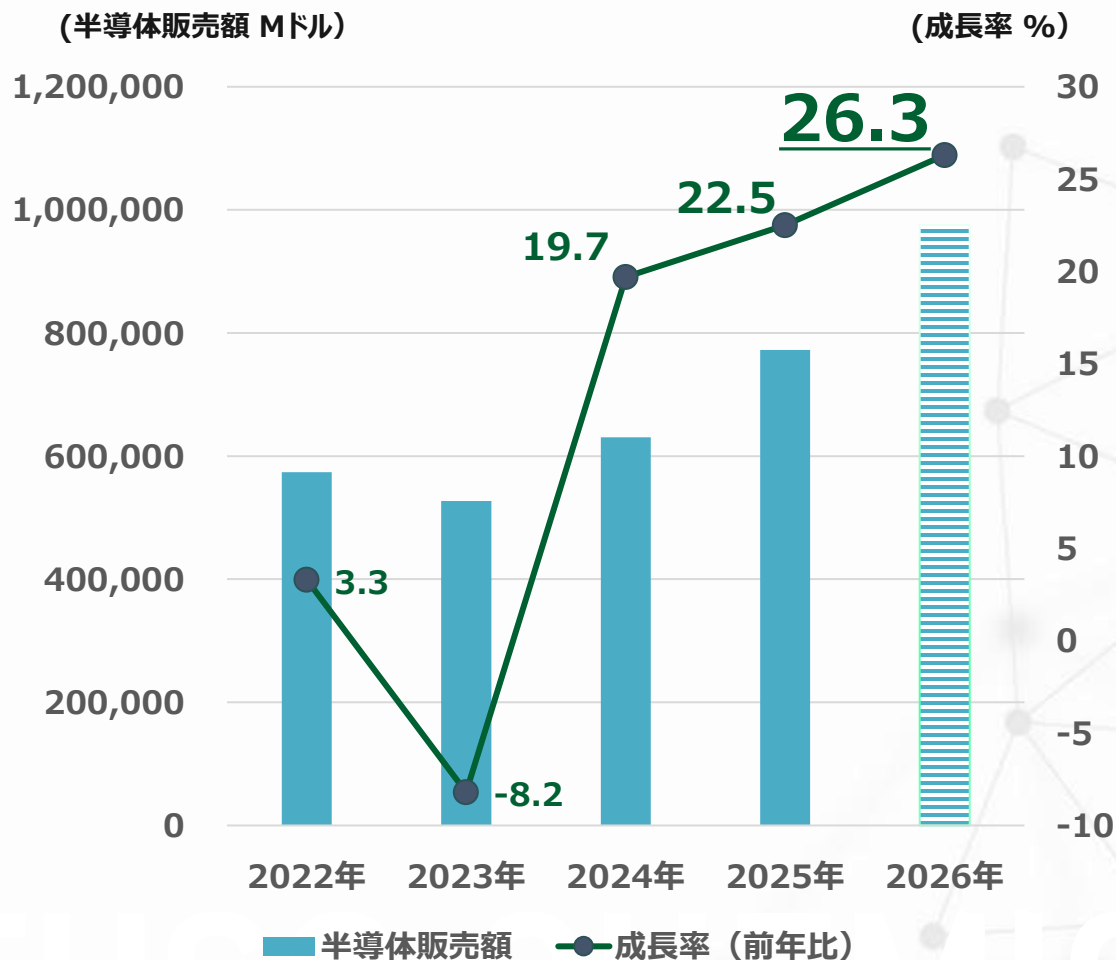
- ミラリカ™(中空サブミクロンシリカ)の確実な採用



I. 急拡大する半導体市場への対応

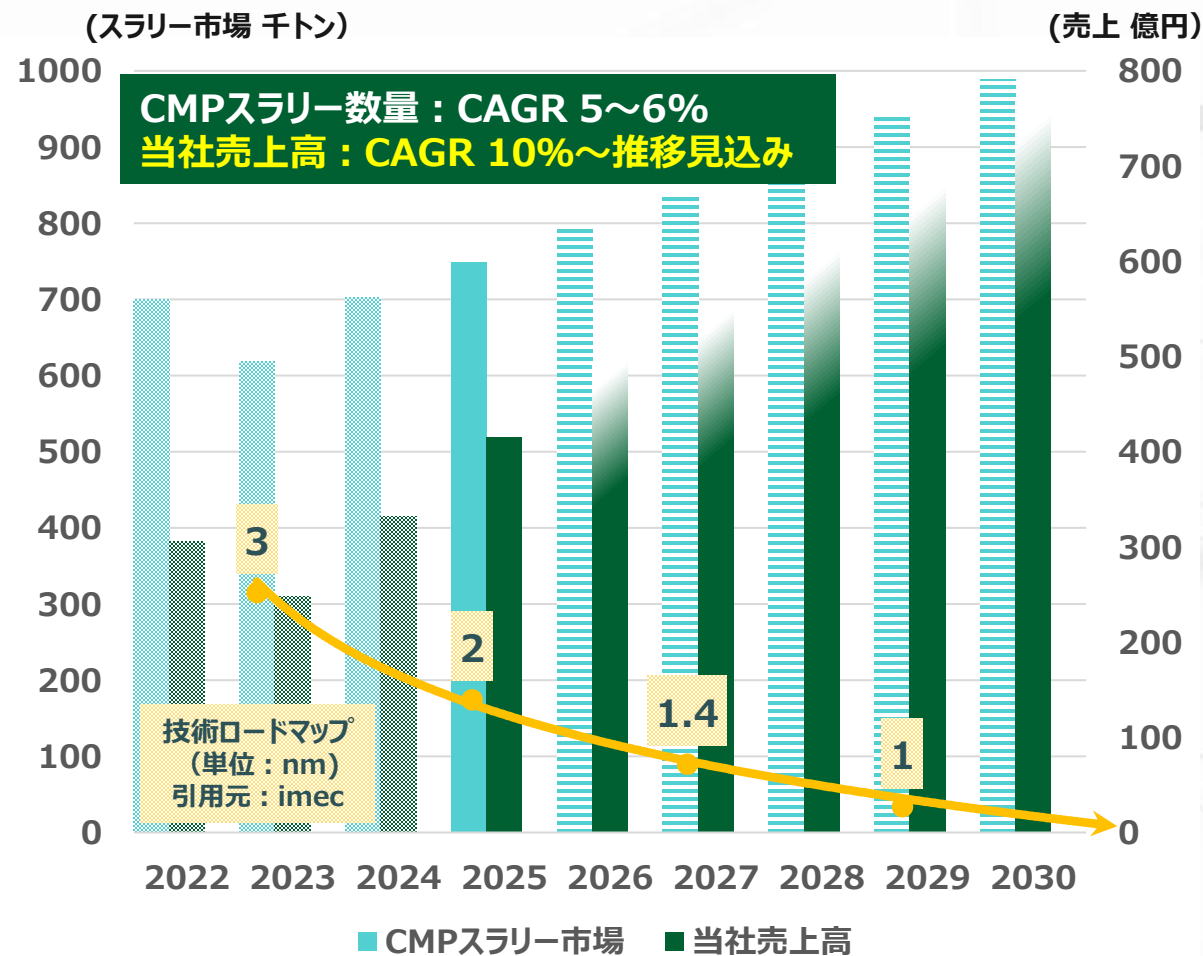


■ 半導体市場



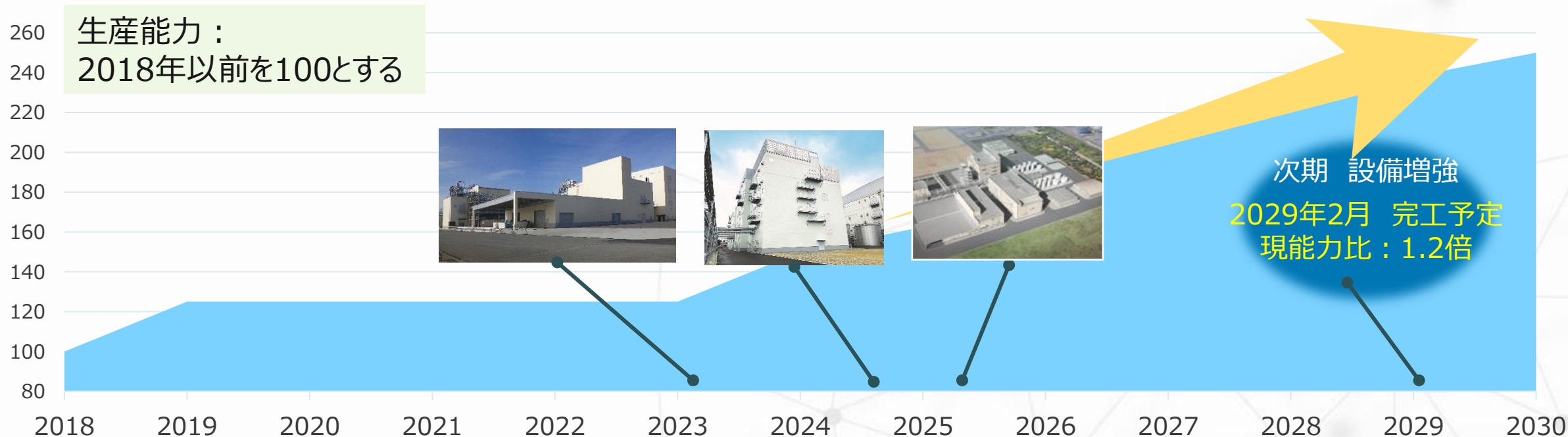
【引用】 WSTS 2025年秋季半導体市場予測

■ CMPスラリー市場/売上目標



【引用】 富士キメラ総研資料を元に当社にて加工

I. 急拡大する半導体市場への対応



既増設	2023		2024		2025		2026		2027		稼働状況
	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	
鹿島Ⅰ期	★	認証～試作品									2025年度 フル稼働
京都新ライン				★	量産体制						2025年度末 早期認定完了
鹿島Ⅱ期					★						2025年8月 完工認定評価中

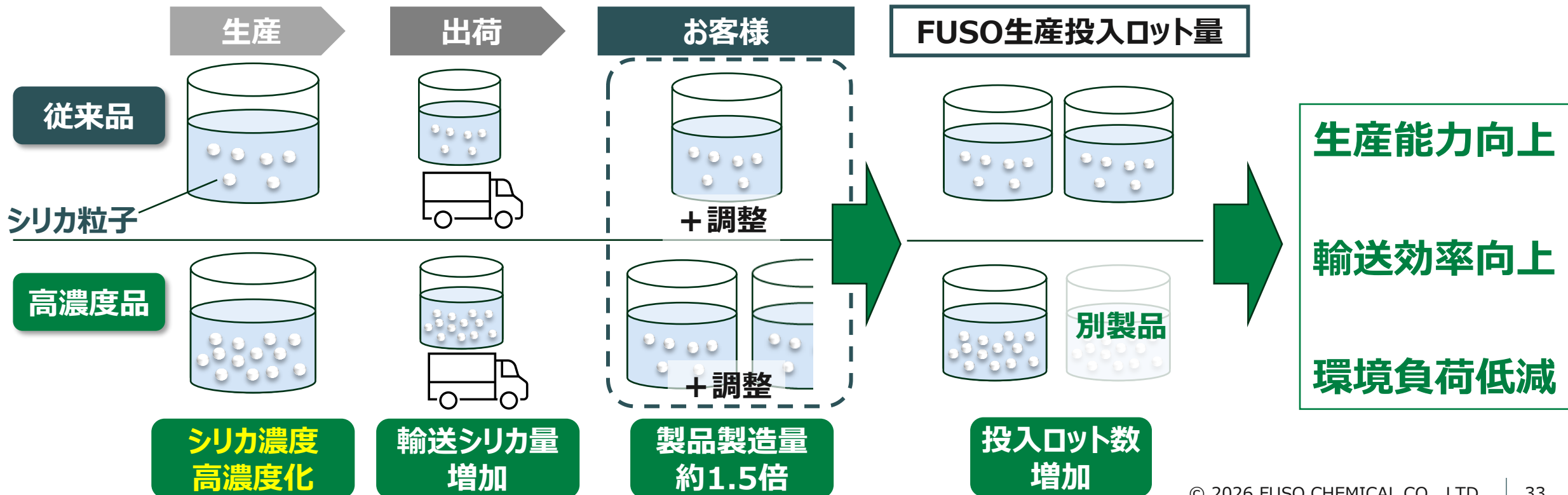
I - 1. 高濃度化及び高生産性製品の拡充



① 生産キャパシティの確保

- 単位時間当たりのシリカ粒子生産量を上げ、単位容積当たりのシリカ粒子の個数を増すことで（従来比 約1.5倍）、投入ロット数を増やすことが可能

従来品と高濃度品の生産～出荷までの概略図

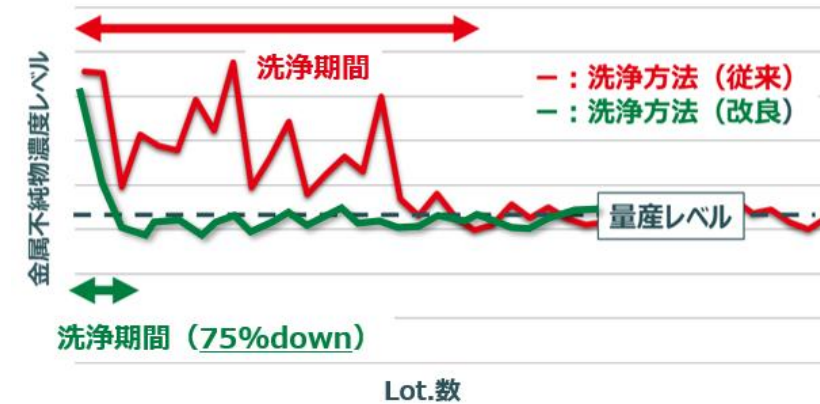


I - 1. 高濃度化及び高生産性製品の拡充



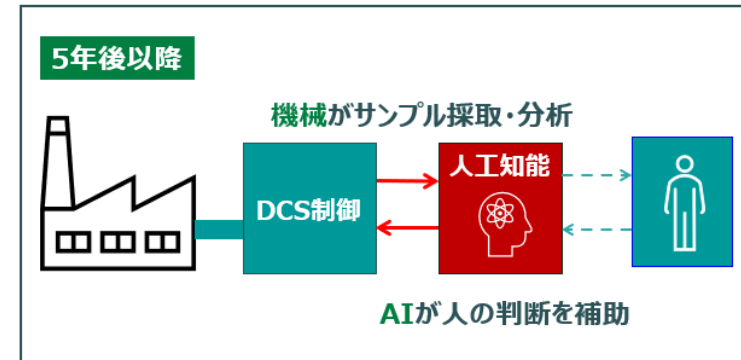
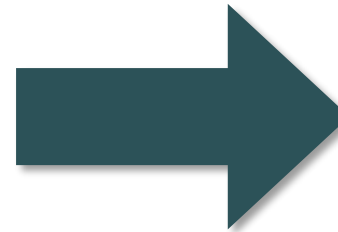
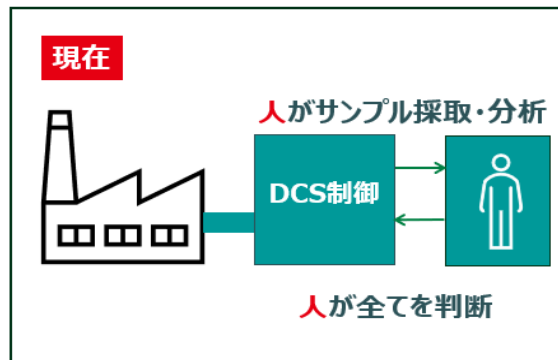
② 新規生産設備の高稼働（立上短縮化）

- 従来ライン洗浄：設備完工してから数か月
⇒ 洗浄方法の工夫で、大幅短縮洗浄できる体制
⇒ 顧客認定活動の短縮・早期量産体制を可能に



③ 自動化による生産効率化（将来的な労働者不足対策）

- 今後5年間でシリカ設備のスマートファクトリー化
⇒ 人の負担を機械化により解除し、1人で現行比2倍の設備管理を可能に
⇒ 実現に向け3つのA※(自動分析、自動サンプリング、人工知能)の導入を推進

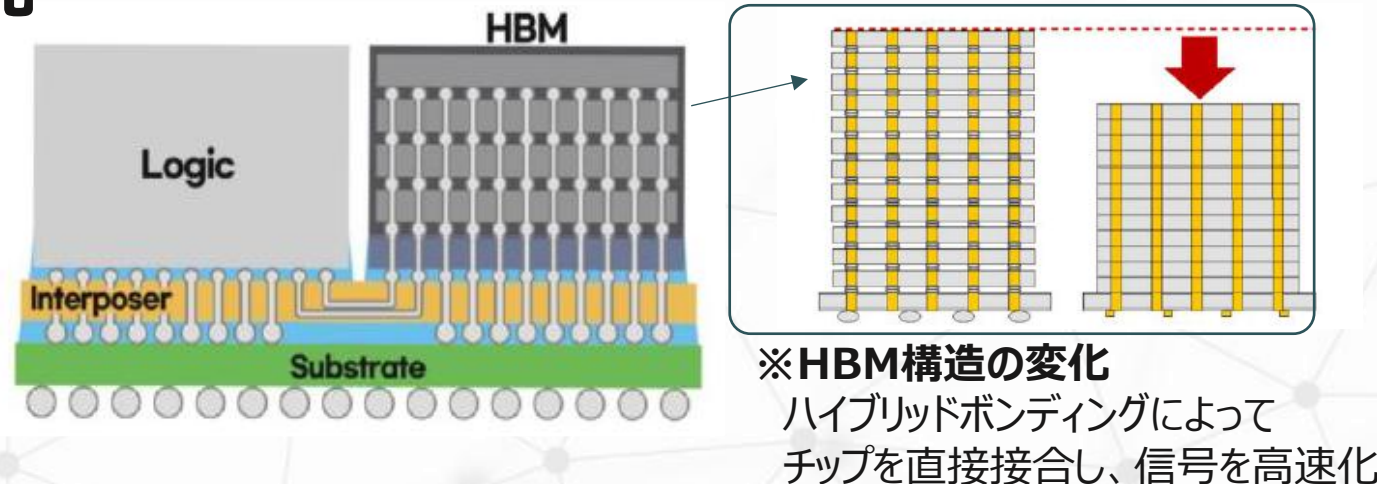


I - 2. 次世代に向けての取り組み

先端半導体向け新規製品の開発

【Advanced Packaging】

複数の半導体チップを立体的に配置し
チップ間の配線を短く、信号遅延が低減
するように設計された最先端の実装技術



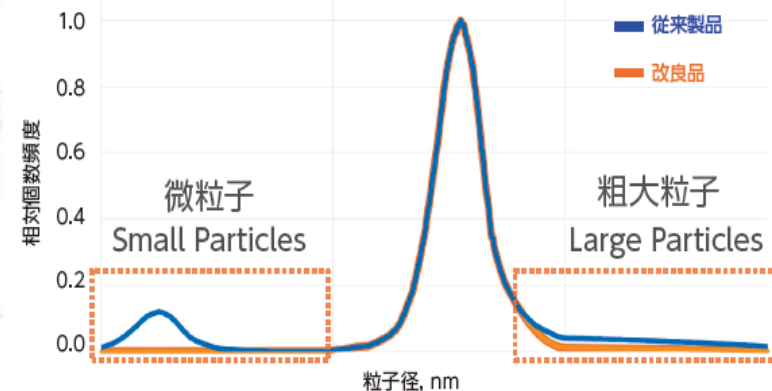
● CMPへの要求高度化

1. 研磨する膜が厚く、**研磨速度UP**が必要
2. 接合面の**平坦化精度**を高く

- ➡ 緻密な超高純度コロイダルシリカを開発
- ➡ 粗大粒子・微粒子を低減した製品ラインナップ拡充

● CMPの可能性

- ・ ウエハバックサイド研磨（Si基板）
- ・ メタル層（Cu膜）、TSV（シリコン貫通電極）
- ・ Ru・Moなど新規導体研磨、樹脂層

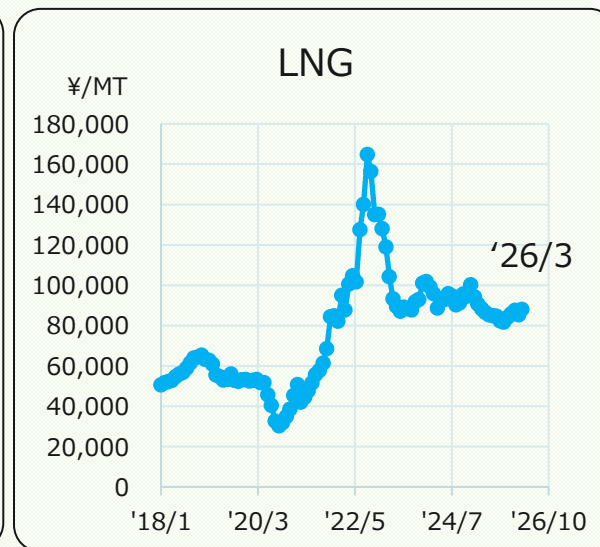
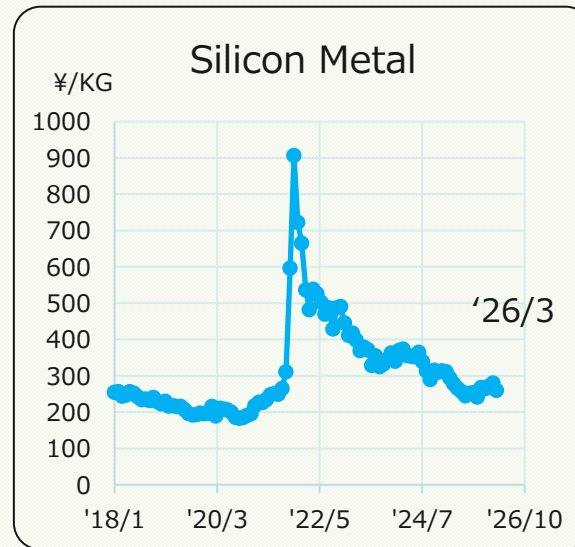


Ⅱ. 外部環境変化への迅速・柔軟な対応



1 価格転嫁

- ① 将来投資に対する負担
 - 償却費増の軽減：次期設備投資額の一部負担依頼
5～10%の値上げ実施
- ② コストアップに対する価格転嫁継続
 - コスト増への対応：エネルギー、原材料費
販売価格への転嫁
 - 生産効率アップ、購入量増に伴う交渉力アップ



グラフ：「財務省貿易統計」を元に当社で作成

2 サプライチェーンリスク

- 金属ケイ素購入国の分散
(マレーシア・ブラジル産など 比率拡大
2030年：5割以上目標)
- 原材料高騰リスクへの対応：複数購買、使用量削減

3 中東情勢

- 燃料費・物流費等 高騰への対応
- サプライチェーンリスクの再検証
- 消耗部材の消費量削減、リサイクル等の検討
- 関係省庁との情報連携

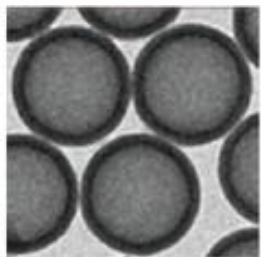
Ⅲ. 新機能材としてポートフォリオ変革



□ CMP向け

- ➡ ・A16/A14世代向けサンプルワーク中
- ・高濃度化、及び高生産性製品 顧客認定作業中

□ 中空サブミクロンシリカ ミラリカ™/Miralica®



- ➡ 低誘電材用途向けを中心に複数社サンプルワーク継続中
- ➡ 2026年度中に設備化、上市に向けた中量産

□ トナー外添剤

- ➡ 2026年度～採用を目指し複数社にサンプルワーク中

□ 化粧品用途材料

- ➡ サンプルワーク継続

□ CMP向け

- ・A10向け開発着手
- ・高濃度化、及び高生産品目ラインナップ拡充

□ 新規材料開発

- ・高純度オルガノゾル
- ・多孔質シリカ
- ・シリカナノシート
- ・FDC™法※
- ・シリカコート材料

※FUSO Dispersible Coat
FUSO独自の粒子コート技術

新規
顧客獲得

次世代
材料開発

展示会

□ ケミカルマテリアルJapan、nanotech展に出展

III. 2027年3月期 業績予想

FUSO CHEMICAL

業績予想



(単位：億円)

2027年3月期

前年実績

対前
年比

売上高

858

769

+11.5%

営業利益

243

188

+28.9%

当期純利益

166

143

+16.0%

償却前営業利益

370

297

+24.2%

- 増設設備の本格稼働で売上・利益増
- 海外市場でシェアをアップ・利益率の高い製品販売に注力
- 中東情勢は織り込まず

前提

2027年3月期

前年実績

年間
為替レート

150円

150円

ベンゼン
価格
(※)ENEOS
ACP価格参照

前年並み

745 \$ /t
(年間平均)

製造
コスト

減価償却費
増加

減価償却費
増加

その他

半導体市況
拡大

半導体市況
回復

為替
感応度

売上高 : 2.1億円
営業利益 : 9千万円 (前年実績)

業績予想



(単位：億円)	上期計画		2026年3月期 上期実績	通期業績予想		2026年3月期 通期実績
	2027年3月期 上期	前年対比		2027年3月期	前年対比	
売上高	431.0	14.3% ↗	377.0	858.0	11.5% ↗	769.2
■ ライフサイエンス事業	184.0	3.5% ↗	177.8	364.0	2.8% ↗	354.1
■ 電子材料事業	247.0	24.0% ↗	199.2	494.0	19.0% ↗	415.1
営業利益	116.0	19.0% ↗	97.4	243.0	28.9% ↗	188.5
■ ライフサイエンス事業	27.0	7.3% ↗	25.1	55.0	3.6% ↗	53.0
■ 電子材料事業	104.0	23.4% ↗	84.2	217.0	36.2% ↗	159.2
(調整額)	△15.0		△11.9	△29.0		△23.8
経常利益	117.0	19.3% ↗	98.0	245.0	25.2% ↗	195.7
当期純利益	78.5	14.1% ↗	68.7	166.0	16.0% ↗	143.1
償却前営業利益	178.0	24.2% ↗	143.2	370.0	24.2% ↗	297.8
1株当たり 当期純利益	74.1円	14.1% ↗	195.1円	156.9円	16.0% ↗	135.3円

※1株当たり当期純利益は
株式3分割後

減価償却費見込



● 2026年3月期～増加要因

- ライフサイエンス事業 : 大阪工場耐震工事
- 電子材料事業 : 鹿島事業所 新設備稼動
(Ⅱ期: 定率償却 2025年12月～)

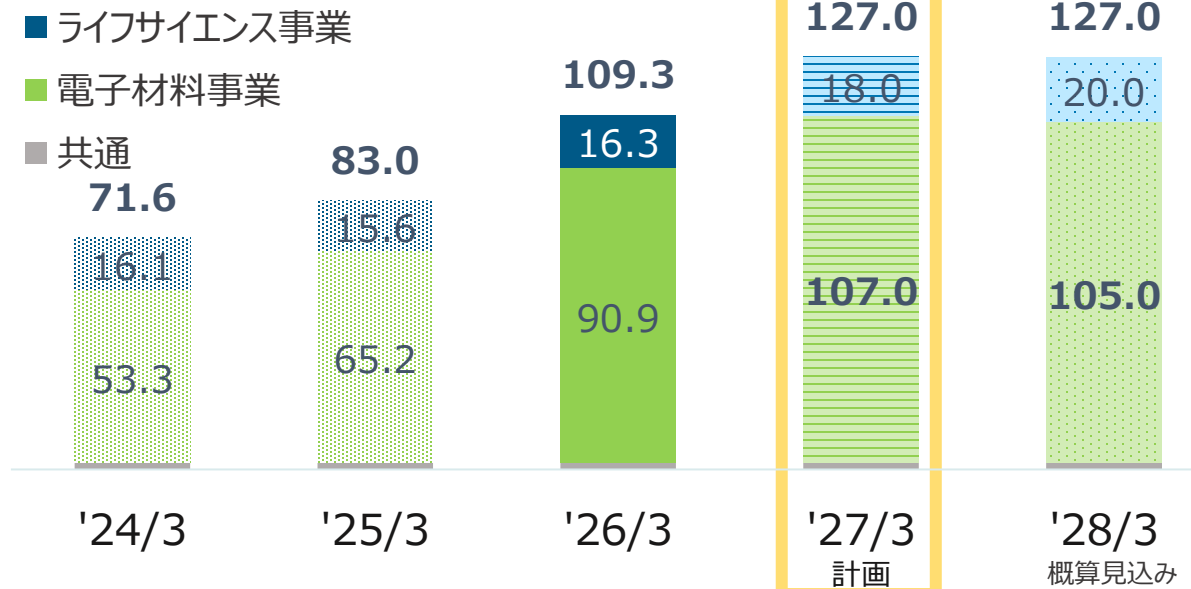
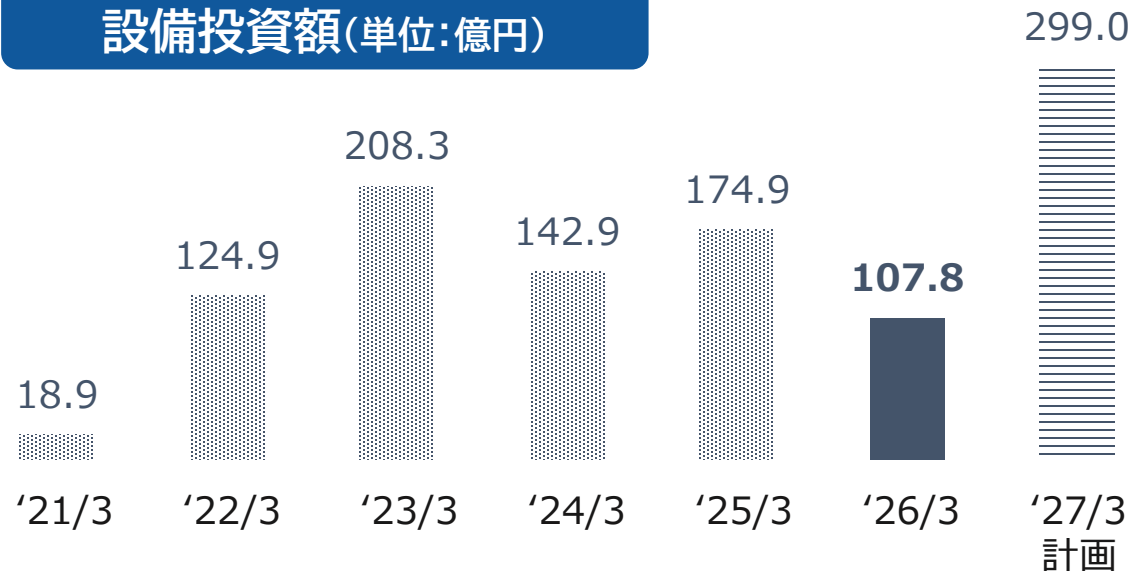
● 2027年3月期～増加要因

- ライフサイエンス事業 : 大阪工場 事務所棟
- 共通 : 鹿島事業所 品質管理棟
(2027年下期～)

セグメント別償却費

(単位:億円)	'24/3 実績	'25/3 実績	'26/3 実績	'27/3 計画	'28/3 概算見込
ライフサイエンス事業	16.1	15.6	16.3	18.0	20.0
電子材料事業	53.3	65.2	90.9	107.0	105.0
共通	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0
合計	71.6	83.0	109.3	127.0	127.0

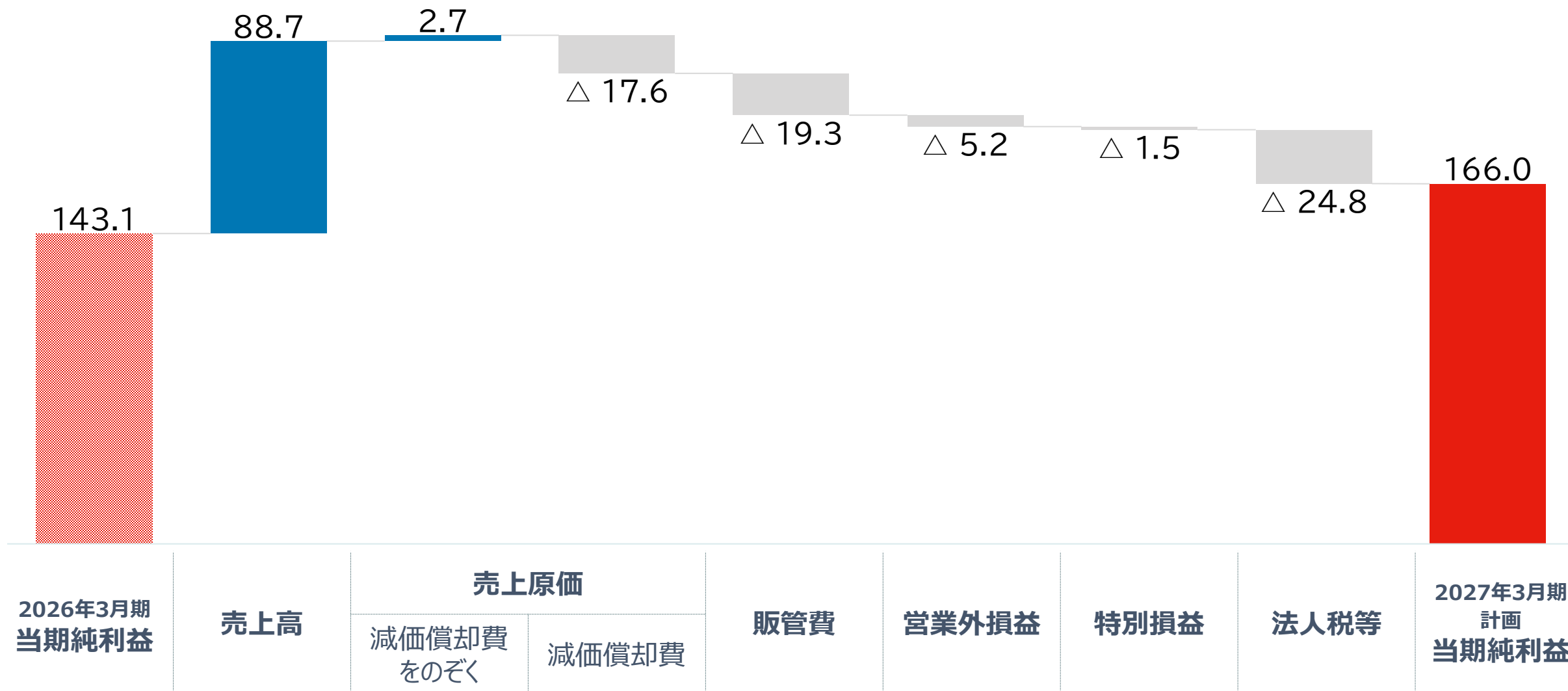
設備投資額(単位:億円)



2027年3月期計画 当期純利益増減要因



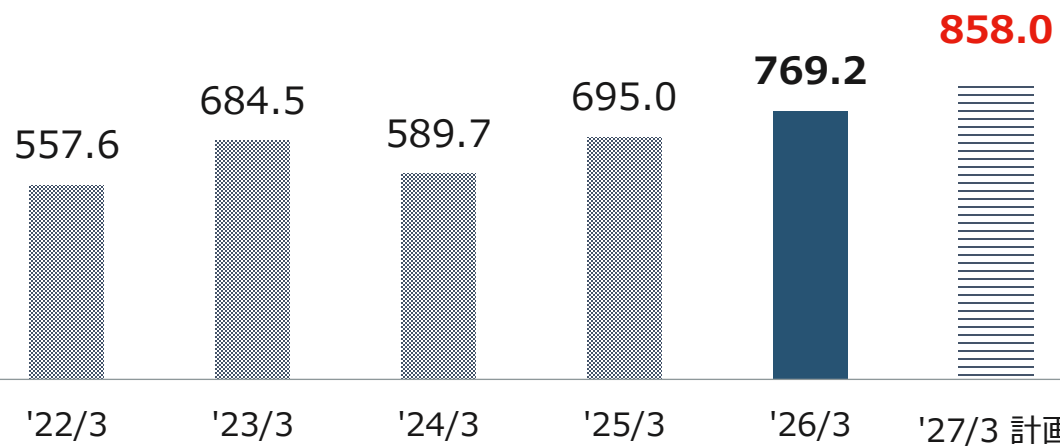
(単位：億円)



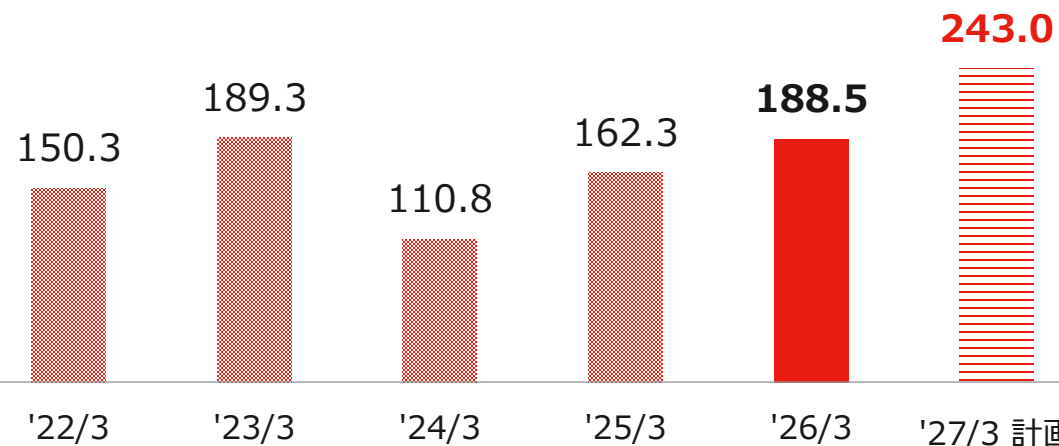
業績推移および予想



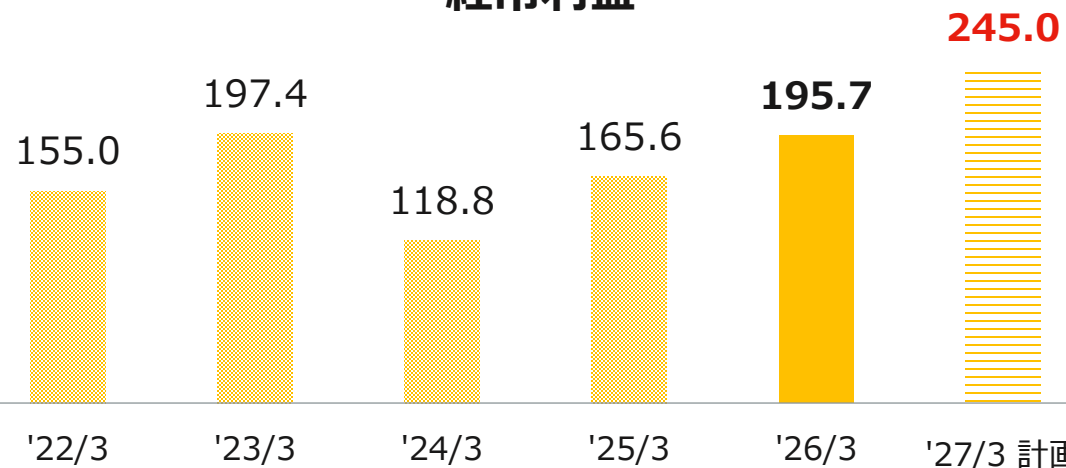
売上高



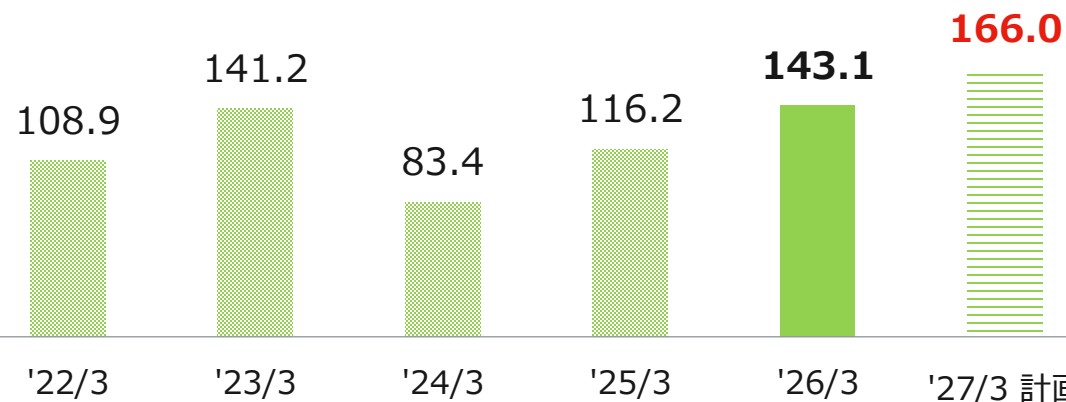
営業利益



経常利益



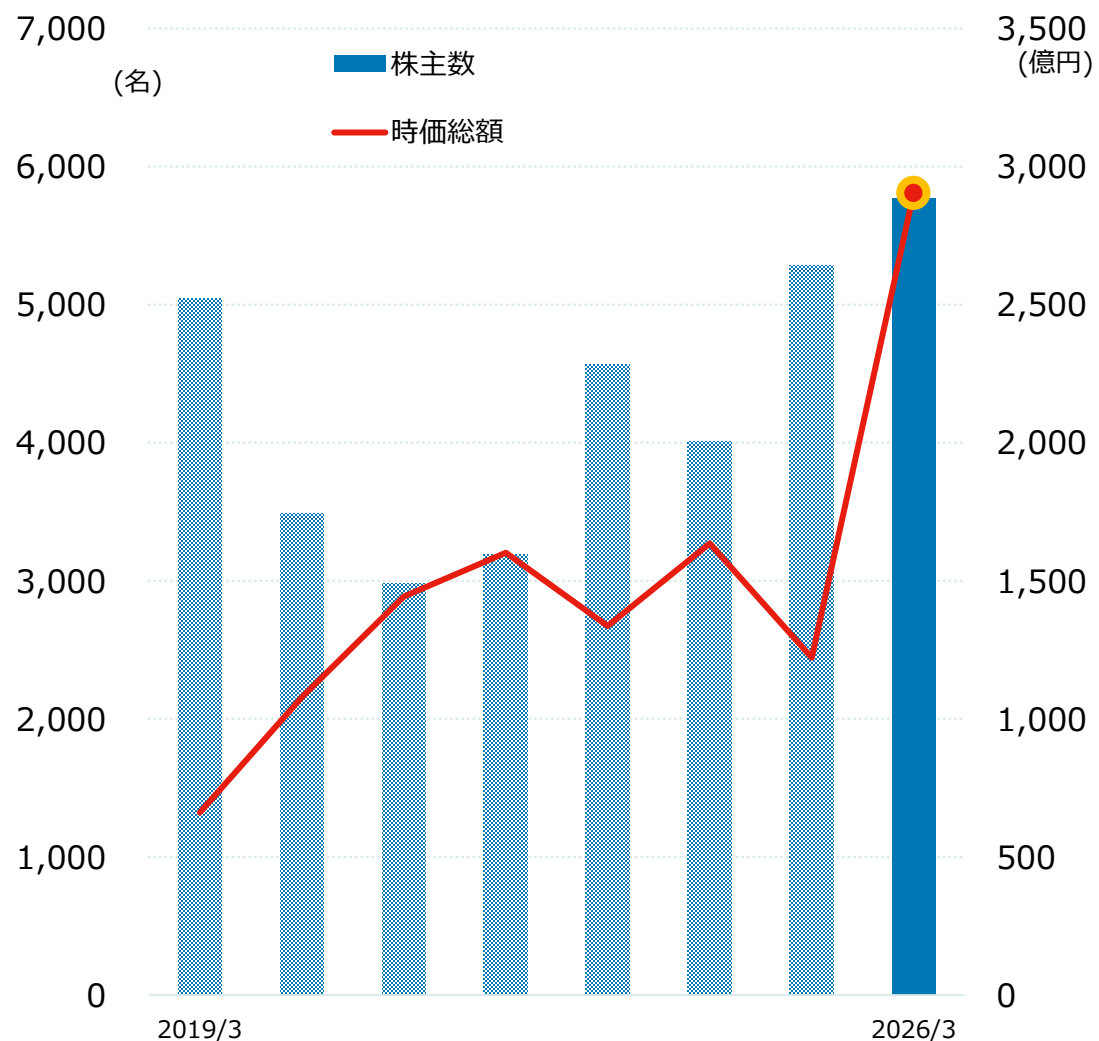
当期純利益



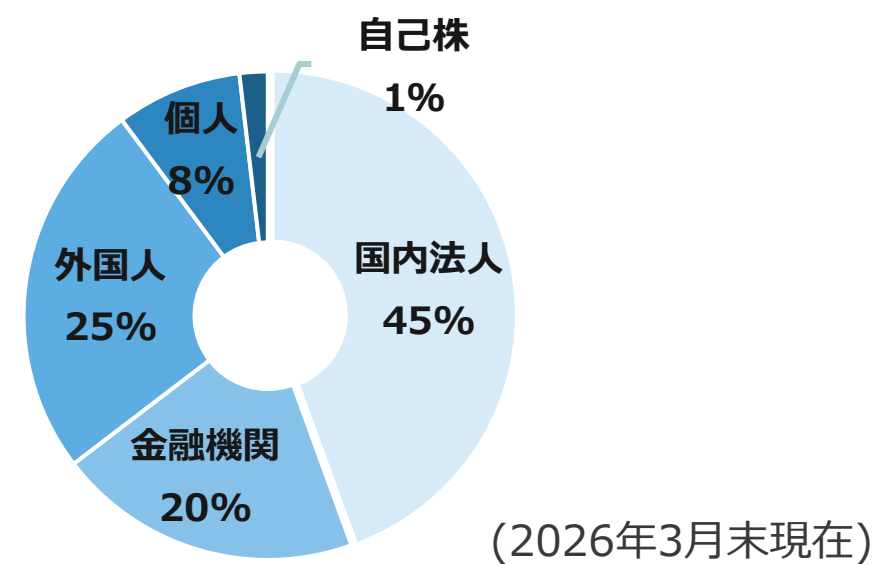
株式情報



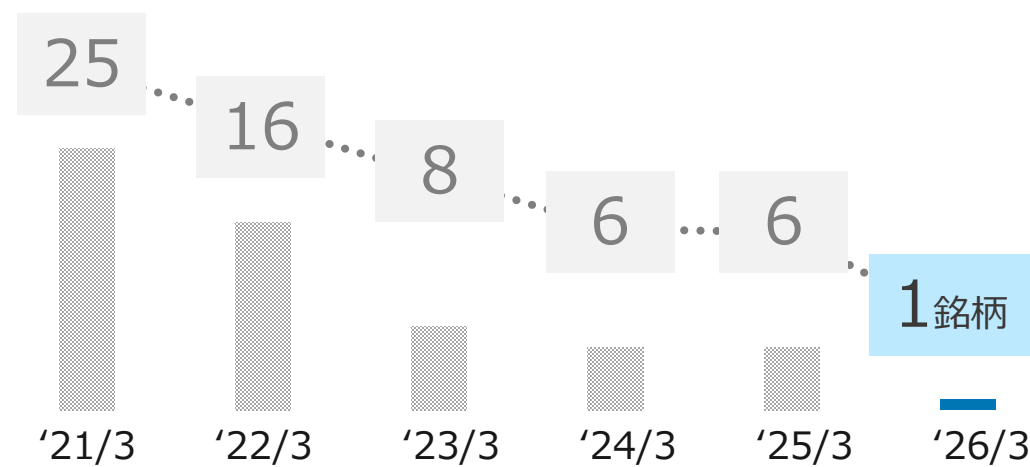
■ 時価総額・株主数



■ 株主構成



■ 政策保有株式の状況(上場株式)



株主還元



■ 株主還元方針

長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるため、
累進配当の考え方を採用

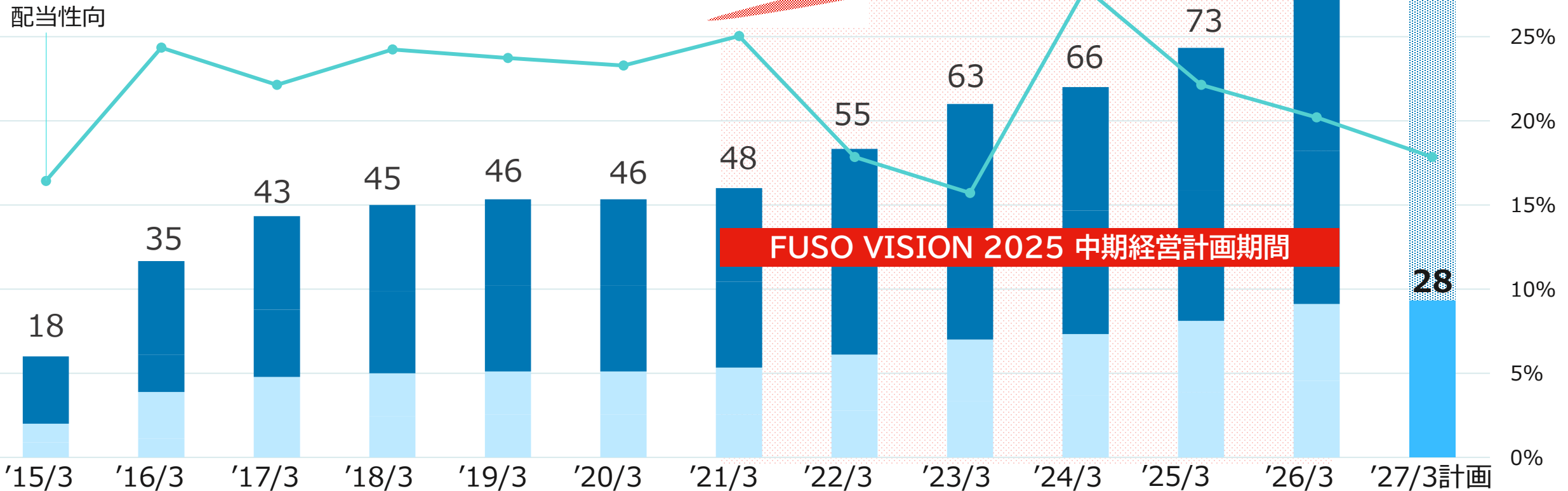
■ 2026年3月期

普通配当金82円（3分割前）

■ 2027年3月期 予想

3分割後**28**円(中間14円・期末14円)
普通配当金**84**円（3分割前）

※当社は、2026年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で
株式分割を行っております。



IV. 中期経営計画

飛躍2030
(2026年度～2030年度)

FUSO CHEMICAL

社是：限りなき進歩と創造

経営信条

- 一・信用を重んじ確実を旨とする
- 一・技術を通じて国家社会に貢献し
- 一・社業の繁栄によって従業員の豊かさを築く

長期ビジョン

- ・グローバルニッチトップ企業として進化する
- ・FUSOの技術で未来を支える
- ・新事業創造に向けて限りなく挑戦する
- ・「FUSOと出会えて良かった」を届ける

1. 前中期経営計画「FUSO VISION 2025」



前中計は、営業利益目標を概ね達成

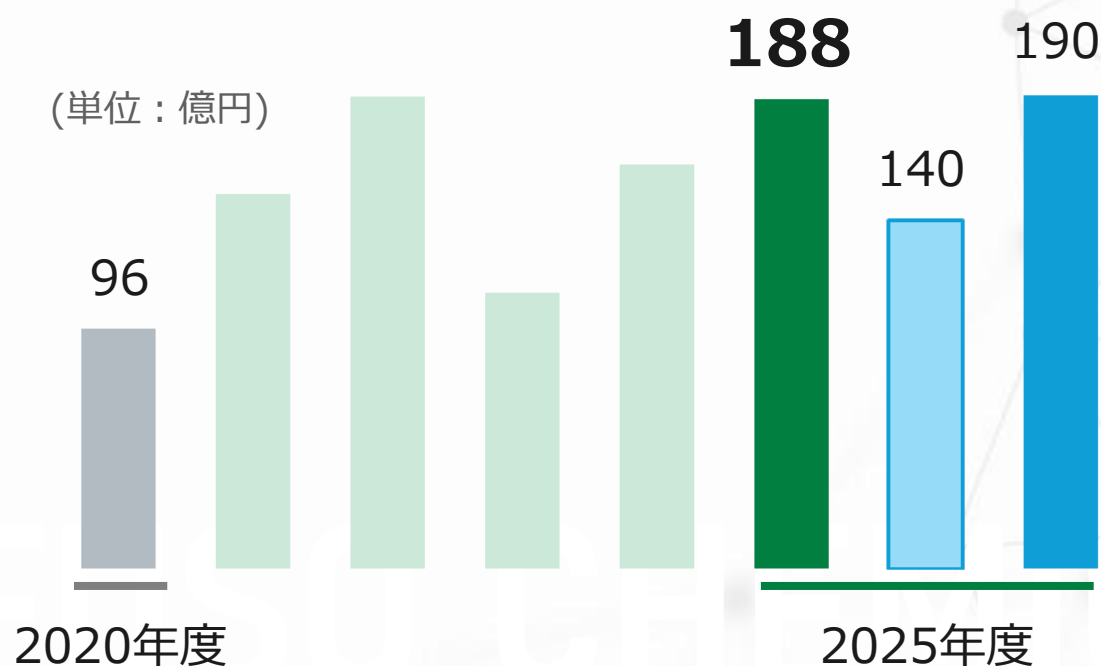
2025年度 実績サマリー

営業利益：188億円
(計画 190億円)

売上高：769億円と大きく成長
(計画 850億円)

償却前営業利益：297億円
(計画 300億円)

海外売上高比率：55.1%
(計画 50%)



左：実績
中：当初計画
右：修正計画

2. 新中期経営計画_概要



ライフサイエンス事業の 事業戦略

- グローバル連携の強化
- 安定供給、品質保証の維持・強化
- コアコンピタンスの強化（新規分野開発）
- 調査・マーケティング施策の強化

電子材料事業の 事業戦略

- 供給と品質の安定
- 最先端要求への対応
- コア技術を活かした新展開
- 基盤強化

生産本部の生産体制

- 安定生産体制の強化
- 生産性の向上
- 顧客信頼の獲得
- 人的資本価値強化

新中期経営計画 「飛躍2030」 (計画年度 2026年度～2030年度)

市場価値の向上

- 高いCAGRの実現
- ROIC経営への取組み

人的資本価値の向上

- 新中期経営計画と連動した
人材戦略の実行
- エンゲージメント向上 など

信頼価値の向上

- 企業価値向上委員会を
新設して推進・進捗を管理
- 新中期経営計画に紐づいた
役員報酬制度設計

サステナブル価値の向上

- 地域との共生
- GHG削減への取組み

2. 新中期経営計画



■ 2030年度 連結業績目標（単位：億円）

売上高		営業利益		償却前営業利益	
2025年度	769	2025年度	188	2025年度	297
2030年度目標	1,200	2030年度目標	360	2030年度目標	567
(CAGR: 9.3%)		(CAGR: 13.8%)		(CAGR: 13.7%)	

※中期経営計画の前提為替レート 1米ドル = 150円

- ・ 成長戦略の実行による売上規模の拡大 （5年間で1.5倍超）
- ・ 営業利益率 30%を全社目標として設定 （5年間で営業利益ほぼ倍増）
- ・ 安定供給と品質・供給責任による成長と収益の実現

2. 新中期経営計画_財務目標・非財務目標・KGI/KPI



2030年度KGI

売上高：1,200億円 営業利益：360億円
償却前営業利益：567億円

市場価値

- 売上高CAGR 9%以上
- ROIC 13%以上
- 株主還元 累進配当の継続
200億円以上の還元

人的資本価値

- エンゲージメントスコア
2025年度比10%向上
- 平均年収
2025年度比30%以上年収増

信頼価値

企業価値向上委員会による
モニタリング体制の実現

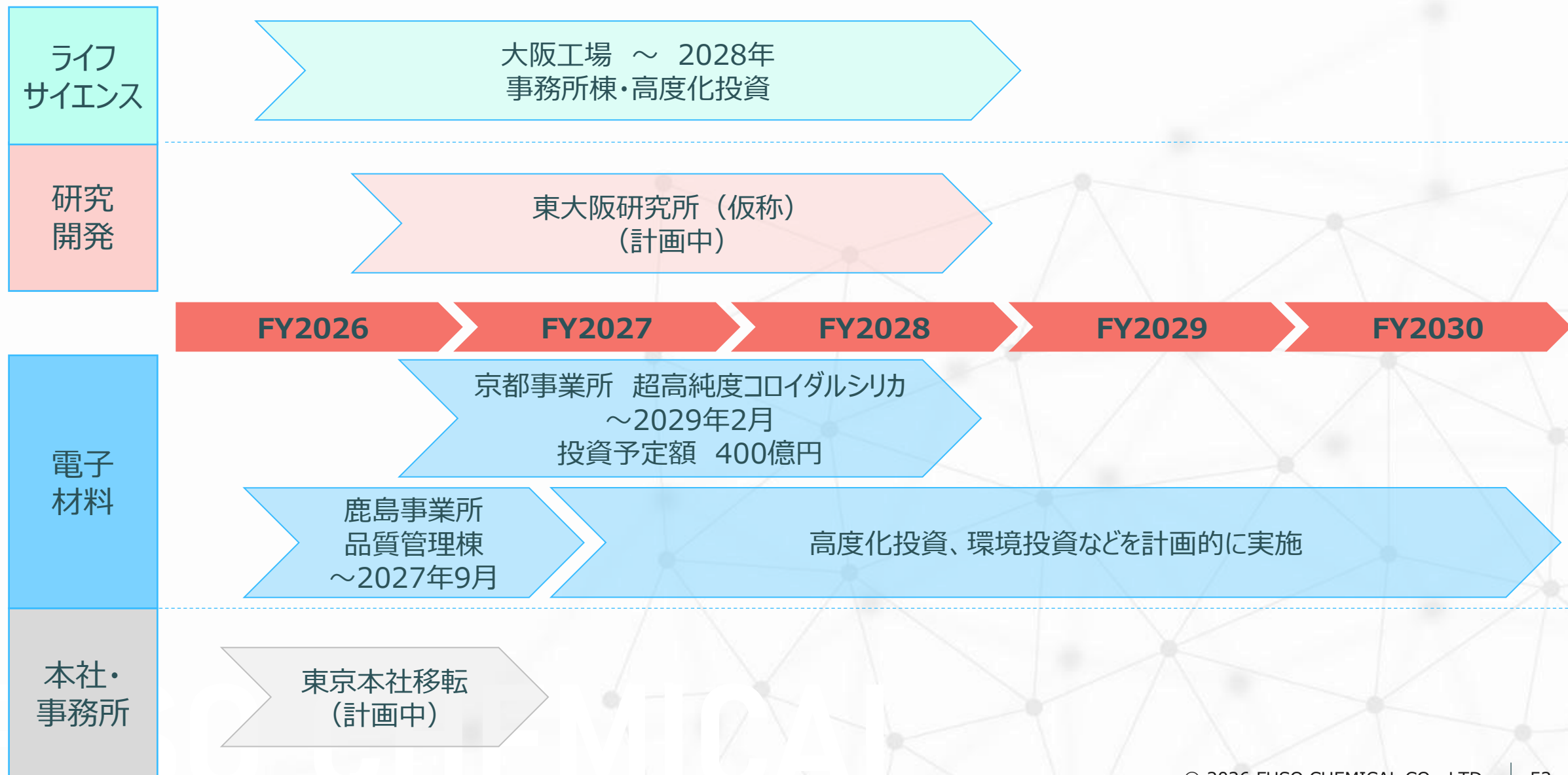
サステナブル価値

GHG削減目標の設定
SBT認証取得
(2028年まで)

長期ビジョンの
実現

4つの価値向上

2. 新中期経営計画_主要な設備投資計画



3. ライフサイエンス事業の成長戦略



■ グローバル連携の強化

- ・ 中国、米国、タイの3拠点と国内の一体運営でFUSOブランドをグローバルで確立

■ 調査・マーケティング施策の強化

■ コアコンピタンスの強化

- ・ FFA製品の拡販と、新規食品添加物製剤のグローバル展開

■ 安定供給、品質保証の維持・強化

◆ 業績目標（単位：億円）

売上高

2025年度	354
2030年度目標	430
(CAGR: 4.0%)	

営業利益

2025年度	53
2030年度目標	75
(CAGR: 7.2%)	

償却前営業利益

2025年度	69
2030年度目標	95
(CAGR: 6.5%)	

4. 電子材料事業の成長戦略



■ 供給と品質の安定

- ・ 増強した設備の早期立上げと次期投資の実行
- ・ BCP対応、重要工程とサプライチェーンの強靱化

■ 最先端要求への対応

■ コア技術を活かした新展開

■ 基盤強化

◆ 業績目標（単位：億円）

売上高

2025年度	415
2030年度目標	770
(CAGR: 13.2%)	

営業利益

2025年度	159
2030年度目標	320
(CAGR: 15.0%)	

償却前営業利益

2025年度	250
2030年度目標	505
(CAGR: 15.1%)	

5. 資本コストや株価を意識した経営



現状

- 市場評価
PBR 2.5倍
- 資本効率
ROE 株主資本コストを上回る水準
ROIC 10%超を維持
- 前中計期間のアクション
政策保有株式の縮減
(上場株式25銘柄 → 1銘柄)
自己株式取得、株式の分割

取組方針

- 完工した投資の早期立ち上げと収益化に注力
前中計で実施した投資の稼働率向上
- ROICを経営判断に活用する体制づくりへの着手
資本効率を意識した意思決定を組織として定着させる
- 売上成長と資本効率の両立を継続的に追求
収益性と投下資本のバランスを意識した経営管理



ROIC 13%を目指す

6. キャッシュアロケーション・株主還元



IN

OUT



■ 成長投資を最優先する キャッシュアロケーション

想定するキャッシュ・イン約1,640億円を原資に、
成長投資へ合計約1,000億円程度を最優先で配分

- ・京都事業所設備投資400億円
- ・東大阪新研究開発拠点 等を含む

■ 株主還元方針

累進配当の考え方を継続
中計期間の目安として200億円程度の還元を想定
追加還元については機動的に検討

※借入金約170億円は中計期間内に返済予定

7. 中期経営計画の実行を支える人材戦略



ウェルビーイングの醸成

自律的キャリア開発支援
評価への信頼性向上 他

人的資本 価値向上

成長・飛躍に向けた戦力の充足

成長分野への重点配置
人材育成への積極投資 他

持続的成長・イノベーションを 牽引する人材の輩出

次世代リーダー育成
高度専門・グローバル人材

8. 新中計で取組むサステナブル価値向上施策



■ 2028年度までのSBT認証取得を目指す

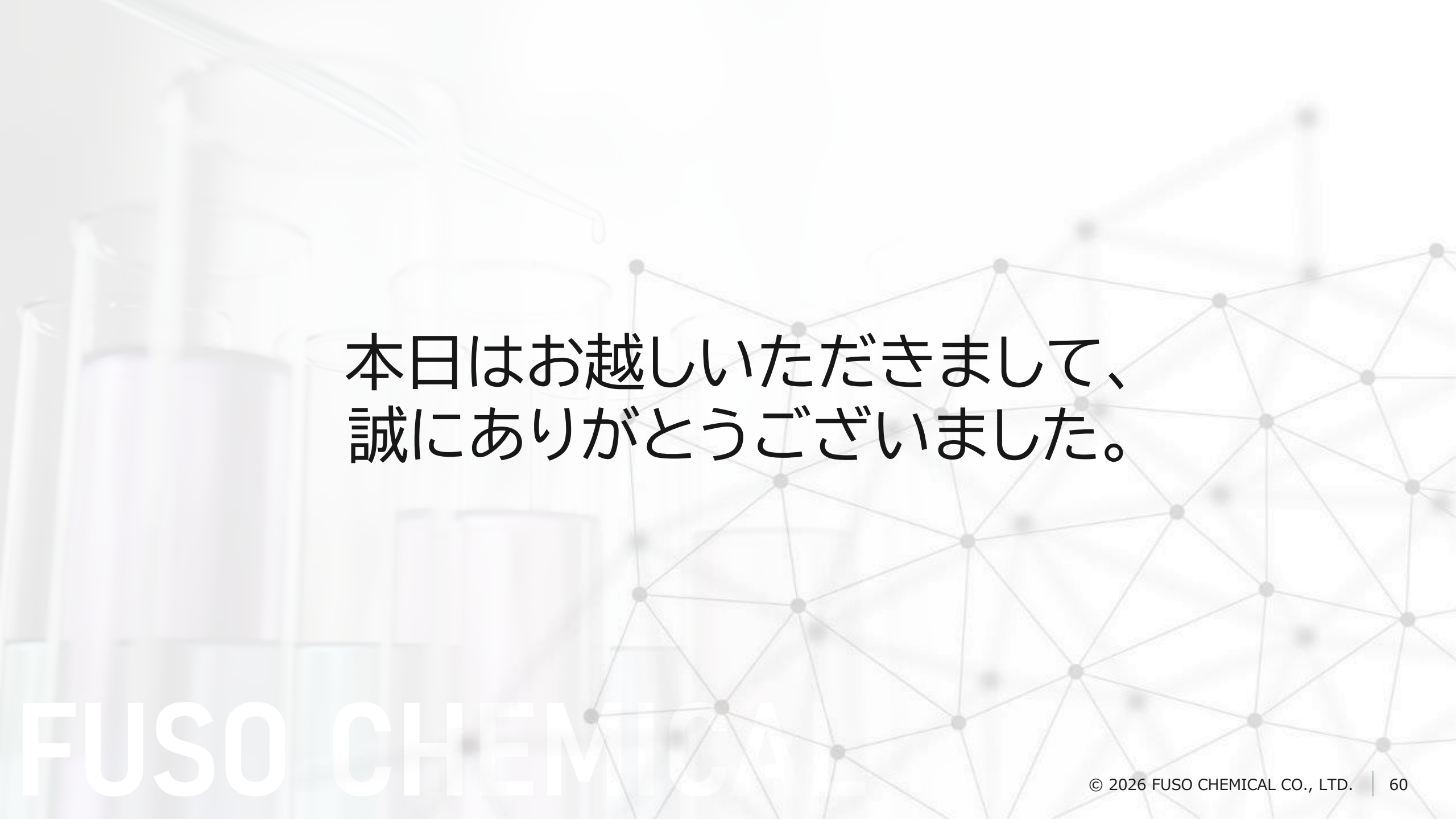
ロードマップ



※削減の実行は、自社排出（Scope1・2）から段階的に着手

IV. Q & A

FUSO CHEMICAL



本日はお越しいただきまして、
誠にありがとうございました。

FUSO CHEMICAL

Chemicals for Human Life
FUSO



FUSO CHEMICAL